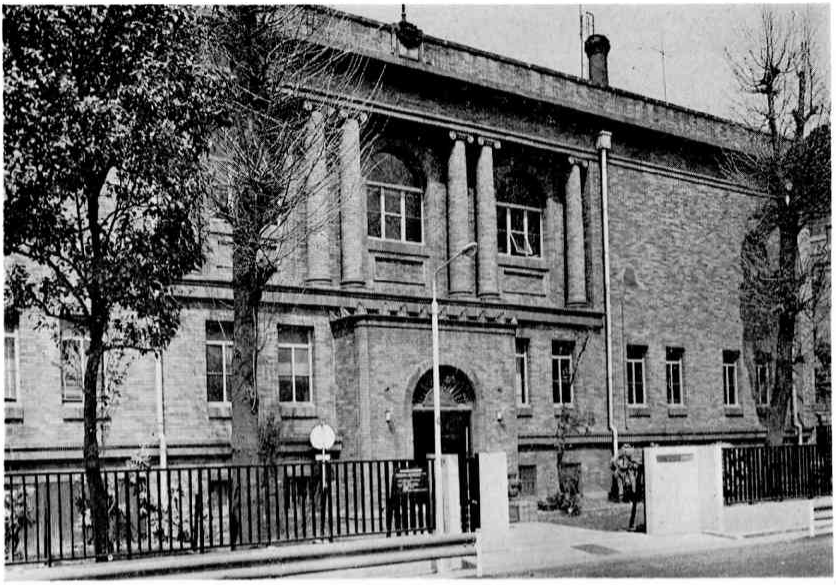
東京国立文化財研究所要覧

1983

昭和58年度



東京国立文化財研究所本館・情報資料部研究棟

東京国立文化財研究所保存科学部実験室・別館

東京国立文化財研究所建物所在図

1. 本館(美術部)
2. 書庫
3. 渡廊下
4. 保存科学部実験室(庶務課・保存科学部)
5. 別館(芸能部・保存科学部・修復技術部)
6. 渡廊下
7. 情報資料部研究棟

はじめに

昭和58年度をふりかえってみると，前年までの研究その他いろいろな活動が一段落し，次の飛躍に移る過渡的期間であったとの感が深い。まず研究面では，昭和55年度以来３カ年間継続してきた文部省科学研究費，特別研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」が終了し，本年度はその最終報告書作成の年となった。これまであまり連絡がよくなかった文化財関係の人文科学・自然科学両分野の研究者に共通の場が設けられたことは，この特別研究の大きな成果であった。本研究所は従来この研究の一拠点としての任務をはたしてきたのであったが，この経験は今後によく生かされねばなるまい。

研究交流面でも57年度のユネスコとの共同による大型シンポジウムが終り，本年度からはひとつのテーマをじっくり追求することとし，壁画の保存シンポジウムの第１回が開催された。この行き方を育成することもまた将来の課題といえよう。

行政改革の波にひきつづいて，本年度は行政管理庁による行政監察を受け，本研究所の意義と業績につき評価を受けた。しかしわれわれはこの現状に満足しているものではない。更に大きな飛躍をめざし邁進する所存である。

最後になったが，４月19日，前所長田中一松氏が御逝去になった。永年当研究所に尽くされた業績をしのび，深く哀悼の意を表したい。

東京国立文化財研究所長
伊　藤　延　男

目　　次

Ⅰ　沿　　革 …… 1

1　設立の経緯 …… 1

2　年　　表 …… 1

3　歴代所長 …… 5

Ⅱ　機構と職員 …… 6

1　機　　構 …… 6

2　職　　員 …… 7

3　名誉研究員 …… 9

Ⅲ　調査研究 …… 10

1　所　　長 …… 10

2　美　術　部 …… 10

(1)　概　　要 …… 10

(2)　研究調査活動 …… 12

A　一般研究 …… 12

3　芸　能　部 …… 15

(1)　概　　要 …… 15

(2)　研究調査活動 …… 17

A　一般研究 …… 17

B　特別研究 …… 19

C　科学研究費 …… 19

4　保存科学部 …… 19

(1)　概　　要 …… 19

(2)　研究調査活動 …… 21

A　一般研究 …… 21

B　特別研究 …… 26

C 受託研究 …… 27
D 科学研究費 …… 28
5 修復技術部 …… 28
(1) 概　　要 …… 28
(2) 研究調査活動 …… 29
A 一般研究 …… 29
B 特別研究 …… 33
C 受託研究 …… 34
6 情報資料部 …… 34
(1) 概　　要 …… 34
(2) 研究調査活動 …… 35
A 一般研究 …… 35
B 特別研究 …… 37
C 科学研究費 …… 37
7 主要研究業績 …… 39
8 その他の研究活動 …… 54

Ⅳ 事　　業 …… 56
1 出　　版 …… 56
(1) 美術研究 …… 56
(2) 日本美術年鑑 …… 57
(3) 日本絵画史年紀資料集成 …… 57
(4) 音盤目録 …… 57
(5) 保存科学 …… 57
(6) 国際研究集会プロシーディングス …… 58
2 黒田清輝巡回展 …… 60
3 公開学術講座 …… 60
4 夏期学術講座 …… 61
5 会　　議 …… 62

6 国際・国内交流 …… 66

V 研究施設・設備 …… 74
1 蔵　　書 …… 74
2 出　版　物 …… 75
3 資　　料 …… 79
4 機 器・設 備 …… 80
5 黒田記念室 …… 87
6 閲　覧　室 …… 87

I 沿　　革

1 設立の経緯

東京国立文化財研究所は，昭和27年4月1日発足したのであるが，その前身であり母体となったものは，昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は，大正13年7月，故帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は，故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選定を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐐二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかって諸方面の意見を徴し，また我が国美術上の必要に照らして次の事業を行うこととした。

(1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。

(2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。

(3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。

(4) 事業成立のうえは一切これを政府に寄附すること。

2 年　　表

昭和元年12月　前記の事業を遂行するため委員会が設置され，東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し，美術研究所事業について東京美術学校教授矢代幸雄，黒田子爵作品陳列について東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清，建築造営について東京美術学校教授岡田信一郎，会計事務について遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月　美術研究所準備事業を開始した。

同　　年10月　東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造，半地階2階建，延面積1,192m²の建物1棟を起工した(本館)。

同　3年9月　前記の建物が竣工したので，美術研究所開設のため必要な備品・図

書・写真等の研究資料を設備し，また館内に黒田子爵記念室を設け，同子爵の作品を陳列した。

同　4年5月　遺言執行人代表者樺山愛輔は，建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。

同5年6月28日　勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ，東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。

同　年10月17日　美術研究所開所式を挙行した。

同　7年1月　美術研究所の研究成果発表機関誌として，定期刊行物「美術研究」を創刊した。

同　年4月18日　株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5ヶ年間毎年5千円，合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

同　年5月26日　帝国美術院はこの申出を受理した。

明治大正美術史編纂委員会規程を設け，美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。

同9年10月18日　毎年10月18日を開所記念日と定めた。

同10年1月28日　鉄筋コンクリート造，2階建，延面積129m² の書庫が竣工した。

同　　年4月　「日本美術年鑑」の編纂事務を開始した。

同　年6月1日　勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

研究資料閲覧規程を制定し，閲覧事務を開始した。

同12年6月24日　勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され，従来，帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。

同　年11月29日　美術研究所長職務規程，美術研究所事務分掌規程が制定された。

同13年2月12日　木造，平屋建，延面積97m²の写真1室棟が竣工した。

同19年8月10日　黒田清輝の作品，並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

同20年5月28日　美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目本間家倉庫3棟に疎開した。

同　年7～8月　酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため，さらに酒田市外牧曽根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之

丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

同21年３月29日　酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同　年４月４日　酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し引揚げを完了した。

同　年４月16日　東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開中であった黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

同22年５月１日　美術研究所官制が廃止され，国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた。これが保存科学部の前身である。昭和23年度より専任の職員を配置し，研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66m²)に設けた。

同　24年４月　本年度から科学研究費により光学的方法による美術品の鑑識に関する研究が開始された。

同25年８月29日　文化財保護法の制定に伴い，美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

昭25年９月15日　文化財保護委員会事務局設置にともない，保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

同26年１月31日　美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第５号)が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。(昭和25年８月29日から適用)

同27年４月１日　東京文化財研究所組織規程(昭和27年文化財保護委員会規則第７号)が定められ，美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の３部１室が置かれ，美術研究所組織規程が廃止された。

また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同　年７月１日　芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室２室を同大学から借用し，研究を開始した。

同28年４月26日　保存科学部研究室として，東京国立博物館構内の倉庫132m²を改造のうえ，移転した。

同29年７月１日　東京文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和29年文化財保護委員会規則第１号)，東京国立文化財研究所となった。

同32年３月22日　東京国立博物館構内に木造，外部鉄網モルタル塗，平家建，８㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。

同　年11月30日　従来の２階建書庫のうえに更に1階を増築3階建とし，増築分延面積71㎡が竣工した。

同34年４月30日　国立文化財研究所研究受託規程(文化財保護委員会告示第14号)が定められ，この年度から受託研究が開始された。

同36年９月16日　東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和36年文化財保護委員会規則第１号)，従来の庶務室は庶務課となった。

同37年３月31日　東京国立博物館構内に保存科学部庁舎(保存科学部実験室)として，鉄筋コンクリート造２階建延面積663㎡の建物１棟が竣工した。

同　年７月１日　東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和37年文化財保護委員会規則第１号)，新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。

同　年７月20日　芸能部研究室は，保存科学部庁舎の竣工に伴い，旧保存科学部庁舎に移転した。

同43年６月15日　文部省設置法の一部が改正され(昭和43年法律第99号)，本研究所は文化庁附属機関となった。

同44年８月23日　保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎(延1,950.41㎡)の起工式が行われた。

同45年３月25日　前記の別館が竣工したので，同年５月26日竣工式が行われた。

同45年４月22日　芸能部は，別館３階に移転した。

同45年５月８日　保存科学部は，別館の地階～２階に実験用機械類の移転据付を終った。

同45年６月29日　保存科学部庁舎の１階の模様替工事に着手し，同年10月15日工事が終了した。

同　年11月２日　所長及び庶務課は，本館から保存科学部庁舎の１階に移転した。(本館は，美術部庁舎となる。)したがって研究所の所在地表示は「12番53号」が「13番27号」に変更された。

同46年４月１日　保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換された。

同48年４月12日　文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和48年文部省令第６号)新たに修復技術部が設けられ４部１課となり，修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ，保存科学部修理技術研究室は廃止された。

同52年４月18日　文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和42年文部省令第10号)情報資料部の新設により５部１課となり，情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ，美術部資料室は廃止された。

同53年３月20日　本館構内の写場等(木造平家建延面積 144m²)を取りこわし，情報資料部研究棟として，鉄筋コンクリート造，地下１階，地上３階，延面積565.95m²の建物が竣工した。

3　歴代所長(昭和５年～昭和58年)

主事	正木直彦	(昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24)
主事	矢代幸雄	(昭和 6.11.25～昭和10. 5.31)
所長事務取扱	和田英作	(昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21)
所長	矢代幸雄	(昭和11. 6.22～昭和17. 6.28)
所長事務取扱	田中豊蔵	(昭和17. 6.29～昭和22. 8.15)
所長	田中豊蔵	(昭和22. 8.16～昭和23. 5.10)
所長代理	福山敏男	(昭和23. 5.11～昭和24. 8.30)
所長	松本栄一	(昭和24. 8.31～昭和27. 3.31)
所長事務代理	矢代幸雄	(昭和27. 4. 1～昭和28.10.31)
所長	田中一松	(昭和28.11. 1～昭和40. 3.31)
所長	関野克	(昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1)
所長	伊藤延男	(昭和53. 4. 1～現在)

Ⅱ　機構と職員

東京国立文化財研究所は，文化財に関する調査研究，資料の作成及びその公表を行うことを目的として設立された文化庁の附属機関である。その機構等は次のとおりである。

1　機　　構

- 所長
  - 庶務課
    - 課長
      - 課長補佐
        - 庶務係
        - 会計係
  - 美術部
    - 部長
      - 第一研究室
      - 第二研究室
      - 主任研究官
  - 芸能部
    - 部長
      - 演劇研究室
      - 音楽舞踊研究室
      - 民俗芸能研究室
      - 主任研究官
  - 保存科学部
    - 部長
      - 化学研究室
      - 物理研究室
      - 生物研究室
      - 主任研究官
  - 修復技術部
    - 部長
      - 第一修復技術研究室
      - 第二修復技術研究室
      - 第三修復技術研究室
  - 情報資料部
    - 部長
      - 文献資料研究室
      - 写真資料研究室
      - 主任研究官

（庶　務　課）
職員の人事に関する事務・職員の福利厚生に関する事務・公文書類の接受・公印の管守及び庶務に関すること，経費及び収入の予算・決算その他会計に関する事務・行政財産及び物品の管理に関する事務・庁内の取締り

（美　術　部）
わが国の美術及び西洋美術・東洋美術に関する調査研究及びその結果の公表・黒田記念室に関する事務

（芸　能　部）
演劇・音楽・舞踊・民俗芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表

（保存科学部）
文化財及びその保存に関する化学的・物理学的・生物学的調査研究並びにその結果の公表

（修復技術部）
文化財の修復に関する科学的・技術的調査研究及びその結果の公表

（情報資料部）
文化財の研究に関する資料の作成・収集・整理・保管・公表・閲覧及び調査研究

2 職　　員

（昭和59年３月30日現在）

所　　属	職　　名	氏　　名	
所　　長	所　　長	伊藤延男	（日本建築史）
庶務課	課　　長	久保庭伊佐男	
	課長補佐	西山　博	
庶務係	係　　長	能村浩次	
	係　　員	松本多賀子	
	事務補佐員	中村節子	
	〃	大田有喜子	
	〃	小木喜代子	
	技能補佐員	薄井祥子	
	調査員(非)	竹中弥生	
会計係	係　　長	斎藤　朗	
	会計主任	相沢　昇	
	事務補佐員	鎌田祥子	
	技能補佐員	高成一雄	
	業務補佐員	松田ツキ	
美術部	部長事務取扱	伊藤延男	
第一研究室	室　　長	柳沢　孝	（仏教絵画史）
	主任研究官	田村悦子	（和漢書道史）
	〃	猪川和子	（日本彫刻史）
	〃	田実栄子	（染織工芸史）
第二研究室	室　　長	関口正之	（日本仏教絵画史）
	研究員	三輪英夫	（日本近世・近代絵画史）
	〃	佐藤道信	（日本近代絵画史）
芸能部	部　　長	三隅治雄	（民俗芸能）
演劇研究室	室　　長	佐藤道子	（寺院芸能）
	調査研究員(非)	松本　雍	（中世芸能）
音楽舞踊研究室	室　　長	蒲生郷昭	（音楽学）
	研究員(併)	横道萬里雄	（中世芸能）
	調査研究員(非)	加納マリ	（日本音楽）
民俗芸能研究室	室　　長	羽田　昶	（日本演劇）
	主任研究官	中村茂子	（民俗芸能）

機構と職員

所属	職名	氏名	
	調査研究員(非)	仲井幸二郎	(芸能史)
保存科学部	部長	江本義理	(分析化学)
化学研究室	室長	馬渕久夫	(同位体化学)
	主任研究官	門倉武夫	(無機分析化学)
物理研究室	室長	見城敏子	(塗料化学)
	主任研究官	石川陸郎	(光学)
	研究員	三浦定俊	(計測工学)
	技術補佐員(非)	富沢威	(分析化学)
生物研究室	室長	新井英夫	(微生物学)
	調査研究員(非)	森八郎	(応用昆虫学)
修復技術部	部長	鈴木友也	(美術史学)
第一修復技術研究室	室長	中里寿克	(漆芸技術)
	研究員	西浦忠輝	(木材材質改良学)
	専門職員	茂木曙	(彩色保存技術)
第二修復技術研究室	室長	増田勝彦	(装潢技術)
第三修復技術研究室	室長	樋口清治	(高分子化学)
	研究員	青木繁夫	(考古学)
情報資料部	部長	宮次男	(日本中世絵画史)
文献資料研究室	室長	上野アキ	(東洋古代絵画史)
	主任研究官	江上綏	(日本古代絵画史・文様史)
	〃	米倉迪夫	(日本中世絵画史)
	事務補佐員(非)	竹之内玲子	
	〃	保坂とき子	
写真資料研究室	室長	鶴田武良	(中国絵画史)
	研究員	鈴木廣之	(日本近世絵画史)
	専門職員	橋本弘次	(美術写真)
	〃	市川和正	(〃)
	〃	野久保昌良	(〃)

昭和58年度における転退職者

所属	官職名	氏名	在職期間	備考
庶務課	庶務課長	守谷安知	54. 4. 1～58. 4. 1	退職
〃	事務補佐員	秦恵子	57. 4. 1～58. 9.30	〃
美術部	第二研究室長	関千代	18.12.15～58. 4. 1	〃
〃	美術部長	真保亨	57. 4. 1～59. 3.16	筑波大学へ転出
芸能部	研究員(併)	横道萬里雄	51. 4. 1～59. 3.31	併任終了
〃	調査研究員	加納マリ	56. 4. 1～59. 3.31	退職
情報資料部	主任研究官	江上綏	38. 5. 1～59. 3.31	〃

3 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在職期間	名誉研究員発表年月日
白畑よし		5. 6.30～27. 8. 1	53.10.18
松本栄一	美術部長	24. 8.31～27.10. 1	〃
福山敏男	〃	23. 5.11～34. 4.15	〃
高田修	〃	27.12. 1～44. 3.31	〃
岩崎友吉	修復技術部長	27. 4. 1～49. 5.31	〃
登石健三	保存科学部長	27.10. 1～50. 4. 1	〃
岡畏三郎	美術部長	20. 5.15～51. 4. 1	〃
中村傳三郎	美術部第二研究室長	22.10. 1～53. 4. 1	〃
関野克	所長	40. 4. 1～53. 4. 1	〃
秋山光和	美術部第一研究室長	21.10. 1～42. 2. 1	54.10.18
久野健	情報資料部長	20. 5.31～57. 4. 1	57.10.18
川上涇	美術部長	21. 2.28～57. 4. 1	〃
関千代	美術部第二研究室長	18.12.15～58. 4. 1	58.10.18

名誉研究員の異動者

氏名	退職時官職名	在職期間	摘要
浦山政雄	芸能部長	27.10. 1～49. 4. 1	54.10.21死去
田中一松	所長	27.10. 1～40. 3.31	58. 4.19死去

Ⅲ　調査研究

1　所　　長

(1)　日本建築史の研究

従来よりの継続として行ってきているものであって，本年度は引続き平安時代に重点を置いた。

(2)　日本建築構造技法の研究

科学研究費　特定研究「古文化財」の一部として行ってきた「文化財建造物の構造力学的研究」のフォロー・アップの意も含めて行っている研究であって，本年度は木造建築構造における貫接合部の力学的研究を行った。成果の具体的内容については，修復技術部の項を参照されたい。本研究には同部西浦忠輝が参加したほか，東京大学教授杉山英男，同助手安藤直人両氏の協力をも願っている。

(3)　文化財保護制度史研究

従来よりの継続として史料整理を行った。

(4)　木材年輪年代学の基礎研究

日光東照宮の好意により日光産スギのサンプルにつき相互の相関性を調査した。スギは個体による年輪生長の差が著しく，相関性発見の困難な個体も多いことが判明した。

2　美　術　部

(1)　概　　要

美術部は日本・東洋の古美術，日本の近代・現代美術とこれらに関連のある西洋美術についての基礎的調査と専門的研究を行っている。美術部は現在２室に分かれ，古美術は第一研究室，近代・現代・西洋美術は第二研究室が担当する。

調査研究は美術部所属研究員の専門領域を中心として実証的に進められているが，学界現下の動向を把握するとともに将来の趨勢を洞察し，方法においても成果におい

ても基礎的先駆的役割を果して広く学界に寄与すべく努めている。そのため重要な研究課題に関しては情報資料部所属研究員と共同研究を行い，また当部独自の光学的研究法による調査と研究を実施するなどすでに多くの成果を収め，文化財保存行政の推進にも多くの貢献を果している。昭和53年度からは6カ年計画で情報資料部と共同の特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」を行い，これに関する資料収集を進め，特に58年度はその最終年次に当り，研究の一部を『日本絵画史年紀資料集成(10世紀―14世紀)』として公刊した。

これらの業績は，当部の機関誌「美術研究」(昭和7年創刊)に発表し，また随時単行の研究報告書として刊行している。各研究員の研究課題と調査研究内容は，(2)研究調査活動の項に示す通りである。さらにわが国美術界全般の動向を調査し客観的資料の提供を主眼とした「日本美術年鑑」(昭和11年創刊)を編纂発行している。

なお，調査研究成果の一部を広く一般の理解に資するために，毎年1回，公開学術講座を情報資料部と共同で開催しているほか，58年度より若い専門家育成のための夏期学術講座を同じく情報資料部と共催している。

また，黒田清輝の遺産と遺作の寄附に基づいて創立された美術部(旧「美術研究所」)の黒田記念室は，黒田清輝の作品その他関係資料を保管し，毎週1回木曜日の午後，一般に公開している。

第一研究室

日本及び東洋諸地域の古美術について，各研究員が専門とする領域と時代を中心に調査研究を進め，主要問題を捉えた共同研究を行い，常に精密な基礎資料の収集に努めている。また，文部省科学研究費補助金による共同研究として「中世美術における伝統と大陸影響とに関する実証的研究」(一般研究A・代表者宮次男)に分担参加した。なお第一研究室の研究員が「美術研究」の編集業務を担当している。

第二研究室

明治以降の日本近代美術に関する調査研究と，これに関連する西洋美術及び日本近世の洋風美術の調査研究，並びに現代美術の動向に関する資料の収集と調査とを継続して行っている。とくに現代美術に関する調査研究においては，その年度に収集した

資料を整理し，その成果を『日本美術年鑑』として毎年公刊している。本年度は，昭和56年の内容をもった昭和57年版を刊行し，引続いて58年版の編集に着手した。

また，研究事業として昭和52年度以降実施してきた黒田清輝巡回展は当研究室が中心となって行われ，今年は11月から12月にかけ福井県立美術館において開催された。

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 美術基準作品の研究

わが国古代中世の美術工芸品のうち，国宝・重要文化財あるいはそれに準ずる優作で，年記があって制作年代の明らかなものや作者・流派・様式等を代表するもの等の美術史上の基準作品について詳細に研究し，美術工芸遺品の体系づけに役立てる。

(1) 仏教絵画史研究

代表的な作品の仁平3年銘持光寺蔵普賢延命像，高野山阿弥陀聖衆来迎図，知恩院蔵山越阿弥陀図について詳細な調査を実施し，それぞれの様式的特色について検討を加えたほか，白描図像ではMOA美術館の九曜星等図像その他を調査した。(柳澤)

京都泉涌寺所蔵の中世仏画の調査ならびに千葉大慈恩寺所蔵の中世・近世仏画の調査を行った。(関口)

(2) やまと絵研究

わが国古代中世のやまと絵は，その発達に和歌とのかかわり合いが深く，四季絵或は歌仙絵など両者は不可分のものとなっている。やまと絵の現存遺例等をふまえ，かつこれら和歌文学の豊富な資料を用い，その関連性を探り，歴史的に明らかにする。その成果として「業兼本三十六歌仙絵」(美術研究325号)他を発表した。(真保)

(3) 基準・在銘彫刻の調査研究

日本古代彫刻の原流をなす中国古代在銘彫刻を京都藤井有鄰館，京都国立博物館等において調査を行った。また，法隆寺四十八体仏の様式技法に関する合同調査に参加した。山梨，愛知，京都，大分の諸像を調査・撮影した。(猪川)

(4) 尊像別分類による彫刻の研究

奈良浄泉寺ほか，京都，大分の清涼寺式釈迦像の調査撮影を行い，「美術研究」に発表した。さらに，安阿弥様の阿弥陀如来像の考察を行って発表した。(猪川)

(5) 絵巻物における書道の調査研究

絵巻物の書道(詞書その他の書)の研究も書道史の一部門たるべきであるが，尹大納言絵巻の書にみる特徴ある書風が千葉県下総町名古屋小御門神社所蔵の尹大納言花山院藤原師賢の真蹟であること確実な例である経巻奥書に注目し，これを実見して，それが右絵巻のものと正しく同筆であることを確かめ，絵巻自体の成立その他の研究にもいささか稗益することがあった。(田村)

(6) 染織品の研究

1) 上代裂の研究

「上代裂の研究」は4年目で，東京国立博物館特定研究の分担者として法隆寺裂・正倉院裂の基礎調査を続行している。(田実)

2) 近世初期染織品及び小袖の研究

和歌山市の紀州東照宮伝来染織品の調査，米沢市の上杉神社蔵上杉謙信所用袴類の調査，宮城県白石市の片倉家伝来陣羽織の調査・研究，日光山輪王寺伝来の舞楽装束(昭和58年3月，重文指定)を昭和57年度に引続き行った。(田実)

3) アイヌ染織品の調査・研究

近世以降のわが国染織品に関連が多く，また原始的要素が濃厚に残っているアイヌ染織品について，調査・研究を再開始した(数年前に4・5年調査・研究していたもの)。(田実)

4) 東京芸術大学美術学部中野政樹代表者の科学研究費の「日本工芸基礎資料集成とその技術に関する研究」の分担者として，染織品の基礎資料調査を始めた。(田実)

2. 科学的方法による材料と技法の研究

X線透過法，赤外線写真，紫外線螢光法，双眼実体顕微鏡，赤外線テレビ等を用いた科学的方法により，わが国美術工芸品の材料・技法・構造などを明らかにする。

(1) 古代中世絵画の材質技法に関する研究

1) 法界寺阿弥陀堂柱絵の研究

この阿弥陀堂の四天柱絵については，特定研究により過去3年にわたって赤外線テレビカメラによる大掛りな共同調査を実施したが，本年度はそれらの資料の整理に当ったほか，この研究成果の一部を研究班を代表して，美術史学界全国大会で発表した。また柱に描かれた尊像64体の図像学的な系統を明らかにするため，太山寺蔵両界曼荼

羅(二種)の調査を行った。(柳澤)

2) 真言八祖行状図の研究

汚損や補修の著しい行状図八幅のうち，竜猛図をはじめとする五幅に関しては既に科学的方法を援用した調査結果を「美術研究」誌上に発表したが，本年度は残り三幅のうちの空海図について近年開発した赤外線テレビカメラによる調査を行い，補墨の判定にはなはだ効果的であったことから，X線透過写真や双眼実体顕微鏡の観察とあわせて，その成果の一部をNHK(TV)で放映した。(柳澤)

(2) 伝統的染織技術の調査研究

昭和56年10月末に修復が完了した片倉家伝来小紋胴服(重文)の復元に山辺知行氏，長板中型染の松原四兄弟，共立女子大被服研究室との共同研究で開始，今年度は染色に関し成功した。日光山輪王寺伝来胴着三領は，片倉家伝来小紋胴服の復元メンバーと同一で，一領は修復完了，二領は復元の調査研究の継続。また日本工芸会で昭和53年度から続けている東京国立博物館蔵「白地風景模様茶屋染帷子」の復元も今年度は6年目に入った。(田実)

3. 美術様式と伝播の研究

わが国美術工芸に見られる様式の展開と系統を，インド・中国・朝鮮や西洋諸地域など諸外国にその源流を探り，その影響と受容の様相を明らかに位置づけると共に，国内における史的展開を体系化する。一方，日本以外の外国各地の美術に関してもそれぞれ様式的検討を行う。

(1) 仏画における大陸影響に関する調査研究

科学研究費による「中世美術における伝統と大陸影響とに関する実証的研究」の一環として鹿児島県坊之津町の坊津歴史民俗資料館において仏涅槃図(竜厳寺蔵)を調査撮影し，その様式的検討を行った。(柳澤・関口)

(2) 中国書道の日本書道に与えた影響の資料的研究

中国書道の影響を考察するについては，その重要な一部門として日本に舶載され，日本書家の研究・鑑賞した書蹟は如何なるものがあったかを具体的に調査・研究する必要がある。それについては江戸時代に入ると書画記，経眼録の類を筆記した学者・趣味人もいたのであって，そのような材料によって舶載書蹟を確実に指摘してゆく。(田村)

(3) バーミヤーン壁画の研究

先年に引続き，成城大学調査隊によるバーミヤーン壁画の共同研究に参加し，報告書作成のための図版選択を開始し，主要窟についてはほぼ終了した。(柳澤)

4. 作家・流派及び美術団体の研究

著名な作家の伝記と作品，作家の属する流派や美術団体の活動などを網羅的に調査して，実体を明らかにする。

(1) 日本近代美術基礎資料の研究

林忠正宛書簡の解読及び内容の研究を行った。(三輪，情報資料部米倉，鈴木) 黒田清輝宛書簡の解読及び研究を行い，久米桂一郎書簡については一部紹介した。(三輪)

(2) 日本近代作家研究

1) 近代洋画家研究

森田元子の作品及び画歴に関する調査研究を行い，その成果を公表した。また，黒田清輝の自筆文献について調査を行い分類編集した。(三輪)

2) 近代日本画家研究

明治以降の作家と団体及び美術批評についての調査研究を行った。作家としては狩野芳崖，橋本雅邦，吉川霊華ほか。(佐藤)

(3) 幕末・明治の美術界の動向に関する調査

文献を中心に，幕末・明治の美術界の動向を編年的に調査整理を行った。(佐藤)

3 芸 能 部

(1) 概 要

芸能部は，日本の伝統芸能に資するために必要な基礎的研究を行うことを目的とし，演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究室の三室より構成されている。芸能部の研究目標としては，諸芸能の理念・構造・技法及びその継承保存に関する研究などがあり，その研究に必要な資料の収集・整備及び記録の作成のための撮影・録音・録画などの作業を行う。また研究の結果は刊行・夏期学術講座・公開学術講座などによって公表する。

調査研究

本年度は，共同研究としては「狂言の技法の研究」「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」の課題に対して，研究員が2，3名ずつ組んで調査研究を行った。また昨年に引続き特別研究として「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究」を研究員全員で実施した。文部省科学研究費補助金による共同研究としては，「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」(総合研究(A)　代表者　佐藤道子)が行われた。そのほか，各研究員は個々に研究課題を選んで実証的な研究を行った。

以上，各研究員による共同・各個の諸研究はいずれも文化財行政に直接間接に寄与する基礎的な調査研究であると同時に，わが国の芸能研究を推進せしめ，日本芸能学の樹立に貢献する基盤となる重要な研究である。

また，月例の研究会活動として，各研究室ごと，あるいは複数の研究室共同で，外部の研究者・奏演者をまじえての研究集会をひらいている。本年度は，「能楽技法研究会」「二月堂研究会」「長唄正本研究会」「民俗芸能研修会」を行った。また例年7月，外部研究者・大学院生を対象としてもよおす連続研究発表会を本年は夏期学術講座として「日本の民俗芸能」のテーマで4日から4日間行った。また恒例の公開学術講座は「声明の技法」のテーマで12月12日に朝日ホールで開催した。

刊行物としては「音盤目録」Ⅲ改訂版を刊行した。

演劇研究室

演劇研究室は，日本古典演劇について芸能学的・演劇学的に調査・研究を行い，またこれら諸芸能の周辺にあって，伝統芸能の成立に深い関係をもつ諸分野についても調査研究を進めている。

本年度は，個人研究として「寺院行事の研究」を行い，共同研究として「狂言の技法の研究」を行った。また文部省科学研究費による研究として「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」(総合研究(A)　代表者　佐藤道子)についての調査・研究を行った。

音楽舞踊研究室

日本の音楽と舞踊について，芸能学的・音楽学的な調査・研究を行い，これら伝統

芸能の成立に深い関係を持つ周辺分野についても，調査研究を進めている。

本年度は個人研究として「邦楽用語の研究」「声明の音楽的研究」「雅楽曲の研究」「長唄の音楽的研究」を行った。

民俗芸能研究室

全国各地に分布伝承する民俗芸能を対象とし，それらの芸能の保存・活用に資するために必要な研究を行っている。本年度は，個人研究として「田楽芸の研究」を行い，共同研究として「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」「狂言の技法の研究」を行った。

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 寺院行事の研究

寺院行事が内包する多種多様な要素の中から芸能的要素を抽出し，各宗派にわたる総合的比較研究を行い，その変遷・分化をあとづけることを一貫した目的とする。本年度は，別記科学研究費による研究と関連して，薬師寺「修二会」・法隆寺「聖徳太子会式」の実地調査を行い，また遊行寺「遠忌法会」・本門寺「会式」の実地調査，真言宗智山派声明・華厳宗声明の録音を行った。(佐藤)

2. 能の演出史の研究

能の演出面の変化を，詞章面だけでなく面・装束・囃子などの構成要素全般の変遷をたどることによって考えようとするもの。本年は，昨年に引続き<クセ>という小段についての分析を行った。(松本)

3. 邦楽用語の研究

邦楽の用語は，分野ごとにまちまちな使われ方をしている。本研究は，それらを総合的に把握・整理して，同語異義，異語同義などの様相を明らかにし，新しい用語体系の確立に資することを目標とする。本年度においてもその一部を達成した。(蒲生)

4. 声明の音楽的研究

仏教音楽の声明にも，宗派とは別に，いくつかの流派があるので，それらを広く比

較して，各流派の音楽的特質を明らかにするとともに，他種目の音楽との影響関係も追究した。(蒲生)

5. 雅楽曲の研究

昨年度に引き続き，現行の雅楽曲について，楽器編成，楽曲構成，その成立や由来，舞のあるものについては装束や持物を，古文献および実際の演奏などから資料を収集して分析研究を行った。(加納)

6. 長唄の音楽的研究

長唄の楽曲構成，旋律構造について，現行曲を中心とした分析研究を行った。(加納)

7. 田楽芸の研究

田楽芸を機能的・形式的に細分類してみることによって，田楽芸の構造を明らかにするための調査研究を行った。(中村)

8. 民俗芸能の民俗的基盤の研究

芸能を，その行われる季節・場所・参加者(演者・観客を含む)などの面から取りあげる連続した研究の一環として，「道中の芸能」に関する調査研究を行った。(三隅・仲井)

9. 民俗芸能伝承方法の研究

各種民俗芸能の伝承方法について資料の収集・分析を行った。(三隅・中村)

10. 民謡の研究

日本の民謡の研究において，民謡の芸謡的要素を無視してはその全き姿をとらえることができないという観点より，上代から近世に至る日本の民謡伝承の上に占める芸謡の位置を究明する目的をもって，前年度に引き続き近世歌謡の分析を行い，あわせて童歌の，特に遊戯歌の芸謡的要素についての調査研究を行った。(仲井・三隅・中村)

11. 話芸・寄席芸の研究

落語を主として話芸・寄席芸を対象とする近世芸能の研究を安原コレクション邦楽レコードの整理を通じて続行中である。(三隅・仲井)

12. 狂言の技法の研究

狂言の「型」，とくに狂言小舞の動作単元を整理・分類する作業を続行し，流派間の異同・能の動作単元との比較等の調査を行い，和泉流における小舞の動作単元一覧を

作成したのに続いて，大蔵流の動作単元に着手した。(羽田・松本)

B　特別研究

「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究」(4カ年計画の最終年度)

民俗芸能の伝承を支える各地域の社会的条件を具体的に把握しながら，伝承条件の変化に対応する新たな伝承の仕方(継承者選定及び技法習得過程)について，各地域の関係者が具体的にどのように対処すべきかの方法論を示すための調査研究を行うべく，全国各地から伝承法のそれぞれに特徴をもつ地域を選んで調査研究をすすめてきた。本年度はそれらの調査で得た資料を整理し，分析研究を行った。目下調査報告の原稿をまとめつつある。

C　科学研究費

「南都諸寺の宗教儀礼に関する総合的研究」

(総合研究Ⓐ　研究代表者　佐藤道子，研究分担者　松本雍，永村真，安達直哉，有賀祥隆，山岸常人)

南都諸宗における仏教儀礼のさまざまを，史的・経済的・人的背景や，建造物・法具等の場的・物的要素を裏づけとして総合的視野で分析し，仏教儀礼の史的変遷形態を通して日本文化の流れを明らかにすることを目的とするが，本研究では悔過会に重点を置き，その特色・意義・史的変遷を追求することとした。

第二年次である本年度は，東大寺図書館・興福寺・薬師寺・円教寺・若狭神宮寺・越前無為信寺等に所蔵の文書調査と一部撮影を行い，また北陸・能登半島・四国北部・中国地方南部一帯の残存悔過会調査を行った。

二箇年にわたる研究調査の成果を討議の上，「南都仏教」52号に各自論考を掲載し，悔過会を主眼とする表記研究の第一段階を完了した。

4　保存科学部

(1)　概　　要

文化財の材質・構造に関する科学的研究，ならびに文化財のおかれている保存環境

の自然科学的研究を行い，これらを基礎として文化財の保存に関する技術的研究を行っている。研究成果は文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられている。また文化財の年代測定・産地推定の研究も手掛けている。

研究組織は，化学研究室，物理研究室，生物研究室の3室から成っている。調査研究の結果は，修復技術部と共同の機関誌「保存科学」により公表される。

修復技術部との共同研究である，特別研究「石造文化財—石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究」は，第7年次として，石造文化財の凍結融解による劣化機構の解明，保存管理方法，合成樹脂処理による強化法等の確立を総合的に推進させている。

受託研究は「史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究お」よび修復技術部と共同の「国宝，重文日光社寺建造物に関する研究」を行った。

化学研究室

文化財およびその保存に関する化学的調査研究(分析化学的調査研究を含む)，ならびにその結果の公表を職務としている。

内容としては，微量分析または非破壊分析による無機物質・有機物質の材質とその劣化に関する研究，展示・保存環境における汚染因子の究明と，それらの文化財への影響に関する研究，劣化防止に関する研究を行っている。

物理研究室

文化財およびその保存に関する物理的調査研究ならびにその公表を職務としている。文化財自体の構造・強度の力学的試験を行い，X線・γ線のラジオグラフィーによる内部構造，欠陥，虫害，腐朽の解明を行っている。また赤外線テレビによる銘記，下絵等の判読にリモートセンシングの手法を取り入れる試みを行っている。

また，保存環境に関し，採光，照明，温湿度の影響とその防止の研究を行うほか，展示，収蔵，梱包輸送の際の適正条件の設定と湿度調節技術を開発し，新施設を使用する際に必要な処置の研究を行っている。

生物研究室

文化財およびその保存に関する生物学的調査研究とその公表を職務としている。文化財の微生物や昆虫等生物による被害調査，加害生物の採集・培養・同定ならびに加害生物の殺菌・殺虫等の防除法の研究開発，実施の指導を行っている。

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 文化財の材質・構造に関する研究

(1) 非破壊分析，微量分析

1) 螢光X線分析

青銅器，金銅仏，建築彩色，ガラス等につき主として非破壊的方法により材質を分析，技法との関連を調査した。(江本)

2) 鉛同位体分析

昨年度に引き続き，新たに300点余の資料を測定した。この中には次のような依頼試料が含まれる。

i) 水落遺跡漏刻の銅管(奈良国立文化財研究所)

水落遺跡漏刻には大小2種類の銅管が使われていた。両者とも，本法により日本産の銅鉱石から作られたことが確認されたが，明らかに異なる鉱床から採られたものである。小銅管(用途不明)は兵庫県生野・明延などの可能性が高いが，大銅管(入水用)は全く性格の異なる別子型鉱床(四国から紀伊半島南部にかけて存在)のものであることがわかった。

ii) 「和布刈宮」銭 (北上市立博物館)

本資料は北上市国見山廃寺跡より出土したものである。北九州にある「和布刈宮」の名を刻んだ銭がなぜ東北地方で出土したかという疑問を解く手掛かりとして，東北地方産の材料で作られているか，九州・四国地方産の材料によるものかを判定するという目的で測定した。しかしその結果，日本産の鉛ではないことが明らかになった。中国遼寧地方から朝鮮半島北部の産の鉛を材料とするものと推定される。

iii) No.9遺跡1号住居址出土銅鏃(横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査団)

本法により，近畿式・三遠式銅鐸と同じ材料が用いられていることがわかった。

従って，弥生時代末期に製作されたものと推定される。

iv） 宇佐市別府出土朝鮮式小銅鐸（北九州市立考古博物館）

朝鮮式小銅鐸は銅鐸の祖型の候補として注目されている。本資料に含まれる鉛は，中国遼寧地方の産と推定され，特に青城子鉱山の方鉛鉱とは近い鉛同位体比をとる。（馬渕）

(2) 法隆寺献納宝物特別調査 ―東京国立博物館―

金銅仏調査に参加し，ガンマー線による構造調査，非破壊的螢光X線分析による材質および製作技法等の調査を行った。（江本・石川・三浦）

(3) X・γ線透視撮影のための基礎資料作成

木彫仏や青銅製品を透視撮影する際の基礎資料として，桧材と青銅で楔状の試料をつくり，フィルム，X線の電圧，照射時間，照射距離を変えて濃度特性を測定し，試料の厚みに対して最も適正な撮影条件を調べた。（群馬高専呉屋充庸と共同研究）（三浦）

(4) 油彩画に対する紫外線の応用研究を行っているが，波長別の利用法，フィルターの作成等基礎的な研究を主眼に行った。（石川・橋本）

(5) 遺跡から出土した有機性遺物の同定

試料に付着している土壌，木等を除去し膜のみにしてから，赤外分光光度計，ガスクロマトグラフィーにより測定を行って，漆であるか否かを同定した。

寿能遺跡からの出土膜について，他の遺跡と異った結果が出た。現在使用されている栽培漆ではなく，ぬるで，山うるし，はぜ，つたうるし，柿渋等の類似物のいずれか，単独か，あるいは混合しているように思われる。（見城）

(6) リモートセンシングの文化財への応用

昨年に引き続き，近赤外分光スペクトルを用いて画像処理により，緑青・群青・代用群青の区別をするアルゴリズムの開発を行った。（三浦）

2. 文化財の保存及び展示環境等に関する研究

(1) 施設内の環境調査

主として展示室，収蔵庫内の温湿度，照明等の環境の測定・施設のシーズニングの検討を行い，展示，保存環境としての適否に関し調査を実施している。（江本・見城・石川）

八戸市博物館	（青　森）
岩手県立博物館	（岩　手）
館山博物館　分館	（千　葉）
埼玉県文書館	（埼　玉）
東京国立博物館	（東　京）
情報資料館	
東京都庭園美術館	（東　京）
ＭＯＡ美術館	（静　岡）
石川県立美術館	（石　川）
岐阜美術館	（岐　阜）
福井県立博物館	（福　井）
相国寺展示・収蔵庫	（京　都）
兵庫県立博物館	（兵　庫）
下関市立美術館	（山　口）
佐賀県立美術館	（佐　賀）

(2)　建造物に付随する障壁画の保存環境調査

光・温湿度・公開という問題をかかえている二条城二の丸御殿大広間を選び，書院造内の襖絵と環境に関する総合的調査を行っている。

温度センサー，紫外線強度計，毛髪湿度計を建物内外に設置し，24時間連続測定し，書院内の環境を四季を通じ観測している。(見城・伊藤・江本)

(3)　高湿度下において，金属と漆膜が共存できる保存環境の研究

出土された刃剣に漆膜が付着している場合に，地上で保存することは難しい。そこで，高湿度下における金属と漆膜とが共存可能な保存環境を見出すため研究を行っている。(見城)

(4)　高湿度下における調湿剤と結露剤の研究

現在使用している調湿剤は80％ＲＨ以上になると，ペレット形がくずれ扱いにくい。また高湿度になる程，結露がおき易くなる欠点があるため，繊維状の麻の木質と紙を組み合わせた調湿剤を研究している。(見城)

(5)　光による染料，顔料の劣化とモニターの研究

調査研究

展示照明の場合，照度，展示の時間等をモニターで尺度にするためのモニターを研究している。(見城)

(6) 屋内汚染(アルカリ)の除去法

新設の美術館・博物館の汚染フィルターは屋外汚染のためのフィルターがほとんどである。屋内汚染を除去するために，フィルターを研究している。(見城・江本)

(7) 文化財におよぼす環境汚染の影響に関する研究

文化財におよぼす粉じんの影響を検討するため，粉じん粒子の塩素イオン含有量を測定した。

当研究所屋上で採取した粉じんでは，1μ以下の粒子から塩素イオンが多量に検出された。また外気を取り入れている屋内でも外気の½程度が検出された。

微粒粉じんの挙動は，屋内において人間が活動を停止している夜間に高濃度となる傾向がありその理由について検討中。(門倉)

3. 文化財の生物劣化とその防除に関する研究

(1) 実態調査と防除対策

文化財に被害を及ぼす生物(微生物，昆虫等)の実態調査を行い，被害の状況に応じた防除対策を検討して助言・指導を行っている。本年度は，下記の調査と防除対策を実施した。(新井・森)

1) 降雨山大山寺(神奈川県伊勢原市大山)は，本年度修復が行われている。イエシロアリの被害と伝えられていた。現地でシロアリを採集して調査した結果，ヤマトシロアリの食害と判定した。(新井)

2) 国立国会図書館で，フィリピン政府からの寄贈図書に害虫が発見され，この虫害の調査および防除対策の依頼を受けこれを実施した。(新井)

3) 鹿の子遺跡出土のうるし紙片にカビが発生し，茨城県教育財団の依頼を受け防除処置を行った。(新井)

4) 国立国会図書館社会厚生課でタバコシバンムシが発生し，その調査と対策を求められて調査と助言を行った。(新井)

5) アメリカでの「日本の絵巻展」終了後，加害生物防除処理を文化庁美術工芸課から依頼されこれを実施した。(新井)

(2) 生物劣化と防除法の研究

文化財に発生する生物起因の劣化要因と劣化機構についての研究ならびに文化財の生物劣化防除方法の研究開発を行っている。本年度は，下記の事項について実施した。(新井・森)

1) 紙質類文化財のfoxing要因糸状菌およびその他の美術工芸品から分離される好稠性糸状菌の菌学的研究ならびに生理的性質を研究し，劣化機構を究明中である。

2) 文化財材質の劣化要因として有機酸に着目し，糸状菌の代謝生成する有機酸分析を継続して実施している。

3) 発掘後の古墳石室の保存に資するべく未発掘古墳の形成する微生物制御因子を追求し，アミンの存在が示唆されたので，低級アミン類の防菌防黴効果を検討し，顕著な防黴効果を示すことが判明した。

4) 未発掘古墳の保存科学的研究の一環として，台の内遺跡(千葉県香取郡)で発見された密閉度のよい箱式石棺内の微生物について調査した。

5) 王塚古墳保存整備計画における石室内外の生物学的調査を行い，石室内の微生物，微生物防除対策等について報告した。

6) 低毒性薬剤の硼素化合物は，適当なセルロース剤と共に濃厚処理すると，顕著な防蟻効果を示すことが判明し，本剤による木材処理方法を研究した。

7) ホキシムは，有機リン剤のなかでも木材保存剤として残効性の認められる薬剤である。ホキシムの殺蟻効力について研究し，濃度２％で使用すれば，殺蟻剤として十分使用できる結果を得た。

4. 考古遺物・遺跡等に関する考古化学及び保存に関する研究

(1) 遺跡等の保存

福岡・史跡王塚古墳，静岡・史跡柏谷横穴等の保存委員会に委員として参加，調査および対策立案を行った。(江本)

(2) 勝田市・虎塚古墳等彩色壁画保存対策委員会に参加し，公開時における観察室内の温度制御，照明方法等彩色壁画の保全に務めた。(門倉)

(3) 水中引揚げ遺物に関する研究

北海道江差，開陽丸および，長崎県鷹島町床浪改修工事に伴う緊急発掘調査の引揚げ遺物について，材質，腐食生成物及びそれらの海域での底質を分析し，埋蔵環境で

の劣化との関連を調査。遺物の保存処理及び経年変化の点検，収蔵環境の保全等につき指導を行った。(江本)

(4) ガスクロマトグラフィーによる湿度の測定

未発掘の石室内部など湿度センサーの使用が制限される環境の湿度を測定する目的で，直径3mmの試料採取管で内部空気を採取しガスクロマトグラフィーによりH_2O量を求めて湿度を求める方法を検討して空気採取法，分析条件を定め実験を行っている。(門倉)

(5) 未開口埋葬施設内環境調査

本年度は，竜角寺古墳および台の内遺跡(いずれも千葉県)において未開口石棺内空気組成の分析を行った。(門倉・見城)

5. 国宝，高松塚壁画保存・修復への協力(修復技術部と共同調査・研究)

58年5月29日より6月7日まで，文化庁美術工芸課による壁画の保存状況の点検が行われた際，画面の点検と一部クリーニングを行い，さらに殺菌処置を施した。

B 特別研究

石造文化財—石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続，第7年次，修復技術部と共同研究)

石造文化財および付随する材料として，煉瓦，瓦類の焼成品，土壁，たたき等に関して，それらの劣化機構の解明，保存管理方法および強化修復技術の確立を総合的に推進させるのを目的としている。

本年度は下記の調査研究を重点的に行った。

(1) 凍結融解による石の劣化の研究(北大低温研，福田正己氏と共同研究)

1) 合成樹脂の効果

シリコン，アクリル，エポキシ三種の合成樹脂で処置した大谷石(凝灰岩)試料の一軸圧縮強度，圧裂引張強度を測定した。その結果，無処置試料に比べてそれほど強度の増大がみられず，従来考えられていたほど樹脂の固化に伴う強化処置効果がないことがわかった。むしろエポキシ樹脂では，樹脂による固化が試料の表面にとどまっているために，凍結—融解繰り返し試験にかけると，試料の両端面のみがごく薄い円板状に残されて無処置試料より早く破壊される。

結論として，合成樹脂の効果は撥水性の付与により，シリコン樹脂溶液に1時間以上浸漬させれば凍結破壊防止効果が得られることがわかった。刷毛による塗布は，樹脂の浸透した深さを確認する必要がある。(西浦・三浦)

2) 気象調査

大分県における凍結―融解の繰り返しの発生頻度について，アメダスのデータを利用して調査した。その結果は，九州のように温暖なはずの土地でも凍結―融解の繰り返しが予想以上に数多く起きていて，凍結波壊防止対策を考える必要のあることがわかった。

さらに臼杵市周辺と気象の類似している埼玉県寄居市に大谷石試料をおいて，1～3月の間の外気温，石表面温度，石中温度の変動を調べ実際に何回凍結―融解の繰り返しが起きるか調査した。(三浦・西浦)

(2) 劣化した石の強化，保存のための基礎実験

各種強化剤，撥水剤について，試料片を用いる基礎実験によるデータの集積を継続的に行っている。本年度は特に処理条件，すなわち含浸方法，含浸量，石の状態等と処理効果との関係についての実験，検討を行い，多くの知見を得た。(西浦)

C 受託研究

1. 虎塚古墳覆土の熱伝導性に関する調査研究（茨城）

昭和49年度より彩色壁画の公開を前提とした保存施設建設のための基礎データの収集と，公開時の環境制御につき調査研究を行って来たが，公開時の対応も勝田市教育委員により実施されるようになった。

本年度は，主に墳丘覆土と石室内環境との相関性を検討するため，墳丘覆土および埋め戻し部分に温度センサーを埋め込み，温度の測定を行い，年間のデータがまとまった。

虎塚古墳に関する受託研究は本年度を以て打切ることになった。(江本・門倉・見城・新井)

2. 国宝，重文日光社寺建造物の保存に関する研究(栃木・修復技術部と共同研究)

二天門の黒化現象は，ケヤキ材の水溶性成分が下地施工時に抽出されて表面に浸出し，漆膜の劣化現象を誘引することが判明している。日光の環境は，高湿度のために

下地施工として柿渋等の硬化には不適当である。今年度は，研究室で高湿度下における塗膜の硬化方法について検討を加えている。

漆塗装への油拭きが劣化におよぼす効果について検討を加えている。

胡粉塗りの防黴効果について経時的変化の観察を継続。(江本・見城・新井・鈴木・中里)

D　科学研究費

アジア，中近東地域鉱床鉛の鉛同体比システマティックス

研究代表者　馬渕　久夫

5　修復技術部

(1)　概　　要

修復技術部は，文化財の修復に関する科学的調査研究とその公表を主務とする部で，保存科学部が主に文化財の保存にかかわる科学的分析研究をつかさどる部であるのに対し，修復技術部は老化破損した文化財を修理または復元する方法を科学的に調査研究している。

研究対象としては，絵画，書跡，彫刻，工芸品，考古資料，出土遺構および木造構造物およびその組織や細部に描かれた絵や彩色，石造構築物などに及ぶ極めて広範囲の文化財があげられる。

研究組織としては，3研究室，6研究員，1専門職員からなっている。

第一修復技術研究室

木材及び漆を主材料とする文化財の修復に関する科学的，技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第二修復技術研究室

紙，繊維又は皮革を材料とする文化財の修復に関する科学的，技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第三修復技術研究室

石，金属，土又はその他の無機材質の文化財の修復に関する科学的，技術的研究とその結果の公表を主務とする。

各研究室とも，経常的な研究として，有形文化財を構成している材料，構造，製作技法についての研究や，それらを修復するための伝統技術の整理体系と科学的裏付けの資料集積，そして更に科学的な材料，技法の修復への応用と開発のための実証的な研究などを実施しており，とくに材質強化，補強，接合，剝落防止，朽損部充塡などについて各種合成樹脂の応用と技法の開発に努めている。

これらの研究過程においては保存科学部との共同研究が必要な部分もあり，また部内においても，一つの文化財が二つ以上の研究室にまたがる複合的な材質からなる場合も多く，それらについては各研究室員による共同作業によって研究が進められている。

(2) 研究調査活動

A 一般研究

1. 伝統的製作技法及び修復技術の研究

(1) 漆芸品の研究

西ドイツ，シュツッガルト市リンデン国立民族学博物館蔵中国漆器の修理は中島淑枝氏によって第一修理アトリエで昨年度より行っている。今年度は2年目に入り，10点が修理されたが，修理に先だって漆芸製作の技法調査を行った。

又古代から近世に至る漆による接着の実例及び記録の蒐集を行った。(中里)

(2) 社寺等古建築の外装化粧材料としての漆塗膜の基材(木部)への密着強度(実際には漆塗膜自体の凝集力)とその耐久性についての平面引張り強度試験による実験的研究を継続的に行っている。耐久度の判定には，劣化促進処理(温水処理，煮沸処理，ウェザーメーター処理，屋外曝露処理)を用いており，強度試験の他に，カラーメーター，グロスメーターによる，色，艶の変化も測定している。試験片としては，昨年度行ったヒノキ材に替えて今年度からはブナ材について，実際に文化財建造物の修理を行っている漆塗装技術者，あるいは漆芸家が漆塗装したものを用いている。(西浦・中里)

調査研究

(3) 木彫像の修復

国内招へい研究員として東京芸術大学美術学部古美術研究施設の山崎隆久氏を招き，木彫像の修復における保存上の諸問題について協同研究を行った。

主な成果は埼玉県松伏町静栖寺蔵の十一面観音立像の解体修理である。この像は高さ1m50cm，室町時代の特徴をよく残す桧材寄木造り，内刳りを持つ立像で，玉眼とし肉身部漆箔，衣部彩色(下地のみ)を施こす。体部は左右二材，首柄，両腕は別材，台座は四方矧寄せで蓮肉を彫出している。

現状は矧目は大方離れて解体の状態であった。

修復は伝統的技法で行う事とし，矧目はほとんど麦漆で接着。台座の一部にエポキシを使用した。表面はほとんど手を加えていないが，残存した金箔部の一部は貼直し，古色仕上げとした。施工工程は写真記録としてのこした。(山崎・中里・鈴木)

この他彫刻史の上で問題の大きい木屎に関する実験的研究を行い，伝統的技法による漆の接着力の調査も行い各種の手板を製作した。

(4) 装潢技法の研究

伝統技術としての装潢技法に関する調査研究を継続している。正倉院蔵屏風の調査と，昨年度から始めた技術用語の収集は，本年度も継続している。「製紙に関する古代技術の研究」を充実させるための〝繊維の外部フィブリル化度の評価法〟について，微量サンプルによる方法を開発中である。(増田)

(5) 金属工芸品の製作技法の研究

中世における金工品の鋳造，鍛造ならびに彫金の伝統的な製作技法をその遺物により，記録の蒐集を行った。武具甲冑に使用されている金具類についても同様に実施した。(鈴木)

2. 彩色文化財の合成樹脂等による保存修復の研究

(1) 合成樹脂による彩色の剝落どめは，昔から処置後の色調の変化が問題であったが，これに対する研究は従来からなかったので今年度から基礎研究を開始した。実験方法は，各種顔料による彩色手板を試験片とし，これに蛋白分解酵素を作用させて膠を劣化させた後，剝落どめ用の種々な樹脂溶液を含浸し，乾燥後の色差をカラーコンピューターで測定した。その結果，一般的には樹脂処置によって明度は減じ，彩度は増加するが，色相はほとんど変化しないことが分った。顔料の

種類によって処置後の色差値は異なるが，傾向として緑青系統の変化は少なく，朱，代緒，黄土系は大きかった。(樋口)

奈良県　重要文化財長谷寺本堂内陣背面の阿弥陀二十五菩薩来迎図(5.4m×5.6m)の剝落どめについて事前調査と一部試験的施工を行った。この画面の残存率はかなり高いが，比較的厚い彩色層の剝離やチョーキング化が甚だしく，技術的に困難が予想されるので樹脂の選択，施工方法など新たに研究を要するものであり，来年度受託研究とすることを予定した。(樋口)

(2) 松島町瑞厳寺内　陽徳院霊屋内部彩色層の剝落どめを目的とした保存事業計画のため，一部試験的施工と処置面積の実測を行い，修理のための資料を作成した。(増田)

(3) 岐阜県恵那郡明智町，県指定重文八王子神社蔵絵馬8面の保存処置及びその技術指導を行った。使用樹脂はアクリルエマルジョン(プライマルＡＣ34)及び水溶性アクリル樹脂(バインダー18)である。尚，「春の鹿」延宝4年(1676)は，かなり厚手の紙に描き，紙の伸びや板の縮みのため，顔料の剝離，剝落が多く，その保存修復処置を行った。研究所に搬入した兵庫県揖保郡御津町室津賀茂神社蔵の洋式帆船図大形絵馬(寛政年間1789～1800)と室津港俯瞰図は，共に彩色の剝離，剝落が甚だしく，木部の虫害等もある。顔料が薄手なので水溶性アクリル樹脂(バインダー18)及びフノリによる彩色剝落どめ，人工木材による木部の修復処置を行った。(茂木)

3. 木造文化財の合成樹脂等による修復技術の研究

横浜三溪園の重要文化財燈明寺本堂外陣大虹梁2本の修復処置を行った。1本は腐朽損壊が樹芯まで及んでいたため，比較的状態のよい片側面だけをウレタン樹脂を含浸させて強化したのち，厚さ約3㎝に挽割り，これを新材の梁の片面を堀り込んだものに接合した。他の1本については未だ処置方法は未定である。(樋口)

4. 文化財建造物の構造力学的研究

木造建築構造におけるぬき接合部の力学的研究を行った。くさびの材質，形状とぬき接合部の強度(剪断モーメントに対する耐力)について多くの実験，解析を行い，有意な知見を得た，特に，くさびの材質(圧縮強さ)が大きく影響する点，長いくさびの場合にはすべり現象が起きるために，却って強度が小さくなる点などが明らかとなっ

た。(西浦・伊藤)

5. 石造文化財の保存修復に関する研究

史跡鳥取藩主池田家墓所の石製玉垣の修復事業に資するための樹脂処置について調査した。石質は砂岩系で風化は少なく，大部分は倒壊による折損で，エポキシ樹脂による接合，一部擬石処置だけで修復可能と判断した。(樋口)

熊本県矢部町　重要文化財通潤橋の石管と木管の接合部漏水防止に従来の漆喰では無効であったのでこれに替る合成樹脂処置を依頼された。研究室で予め実験した結果，フェノール樹脂マイクロバルーンを基体とし，これにシリコンラバァーと柔軟性エポキシ樹脂を夫々混入したペースト状のパテを試作し，漏水部分のシーリング材として漏水を完全にとめることができた。この樹脂は必要に応じて機械的に簡単につき崩して除去することができるものである。なお，漏水の原因の1つは，接合部の密着が悪く，漆喰が吸水した状態で凍結融解を繰り返すことで漆喰が劣化，崩壊するものと思われる。故に石管接合面の損壊，凸凹を樹脂で修正し，漆喰穴の密着性を良好にしてからこのような樹脂を詰めるのが最も有効であった。(樋口)

6. 遺跡，遺構の保存処置の研究

(1) 辛亥銘鉄剣が出土した埼玉県稲荷山古墳の礫槨の保存処置の一部として，発掘当時に礫を固定するために礫の間隙に詰めてあった漆喰をはずし，その跡をエポキシエマルジョンに土を混じたもので補填して外観上発掘当初の状態にもどす工事を指導した。(樋口)

(2) 埼玉県立博物館の改装開館に際し，以前，発掘し取り上げたままになっていた2トン余りの「たたら炉」の保存処置を指導し，展示可能な状態に修復した。(樋口)

(3) 茨木県勝田市の十五郎穴横穴古墳，静岡県函南町の柏谷横穴群などの保存に関連し，保存科学部に協力して樹脂処置に関し検討した。(樋口)

(4) 静岡県長岡市　天然記念物地震動の擦痕を有する魚雷の保存に関し保存科学部とともに調査し，防錆のためにタンニン含有グリース(デンソー)処置を指導した。(樋口)

7. 出土遺物保存処置の研究

(1) 一般に土器の欠損部の補修には石膏が使われているが，近年は合成樹脂も使わ

れるようになった。しかし材料としては不充分なものである。今回，エポキシ樹脂エマルジョンにシランカップリング剤を添加したもので焼土粉，マイクロバルーンを混練する方法で多孔質感を有する土器補塡用新素材を開発し，その硬化特性，機械的強度を試験した。これは既に一部の土器修復に使用されつつある。(樋口)

(2) 東京国立博物館東洋館所蔵の出土品，陶製双耳瓶の表面が塩類風化のため崩落状態になったのでこの保存処置を行った。方法はまず，表面を薄い和紙で水貼りした後，純粋パルプ粉末に水を加えてペースト状にして厚くつけ，そのまま乾燥と加湿を繰り返して脱塩した。その後，パラロイドB72溶液の20%溶液を含浸させて強化した。(樋口)

(3) 東京都多摩ニュータウン出土の銅板製経筒2基の保存処置を行った。経筒内部には，10数本の経巻の残欠と思われるものが納入されていたが，その1巻を装潢技法によって展開したところ全く白紙であった。崩壊した銅板製経筒は，極薄和紙をパラロイドB72の30%溶液で表面に貼りつけて強化し一応の仮処置を終えた。(増田・樋口)

8. 国宝，高松塚壁画修理事業への協力

昭和58年6月に行われた，壁画の保存状況点検に際して修復作業に参加した。(増田)

B 特別研究

石造文化財—石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続，第7年次，保存科学部と共同研究，26頁参照)

劣化した石の強化保存処置としての樹脂の含浸処理については，有効な材料，処理条件，方法に関しての多くの実験研究により，広範なデータの蓄積が行われているが，本年度は特に，処理条件，即ち，含浸方法，含浸量，石の状態等を処理効果との関係についての実験，検討を行い多くの知見を得た。(西浦)

割損部の接着，欠損部の充塡成形等の修復処置に関する基礎的実験研究も引続き行っており，特に，耐久性についての検討を本年度行った。(西浦・樋口)

その他，類似材料(瓦，煉瓦等)についても，石に準じた方法で，保存強化処置，修復処置について実験研究，調査を行っている。(西浦・樋口)

調査研究

C 受託研究

1. 浄光寺所蔵の近世における彩色木彫像泥下地の保存修復処置に関する研究（東京）

比較的時代の新しい木彫彩色像には，しばしば泥下地とか，厚塗りの胡粉下地を置いて彩色してあるものが多いが，これらの厚い彩色層がそり返えるように剝離している場合は，従来の剝落どめの方法では修復することができず，塗り替えが通常行われていた。本研究では，厚い剝離彩色層表面に和紙を貼って養生した上で，多量の水を顔料に吸収させ顔料層を軟化させた状態で，30～50％の高濃度アクリル系樹脂の溶剤溶液を剝離界面に注入し，再接着する方法を採った。また剝落跡には胡粉で下地をつくり，周囲に調和する程度に彩色を施した。

2. 宗本寺宝篋印塔(康永3年・4年銘)の保存修復に関する研究(群馬)

石造宝竹印塔の倒壊破砕について，合成樹脂による保存修復を行ったものである。相輪部の折損，塔高欄部の欠失などの損傷があり，さらに石質が劣化し，表面が脆弱化しているのを合成樹脂により強化し，補修したものである。接合にはエポキシ樹脂を用い，欠失部は別途石材を加工補作し接合整形を行い，全体にSS101を塗布含浸させ強化した。

6 情報資料部

(1) 概　　要

情報資料部は，従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成，収集，整理，保管等の業務を充実発展させ，さらに研究所各部の所掌にかかる資料を対象とすることを目的として，文献資料研究室と写真資料研究室の二室をもって，昭和52年4月に発足した。

当部の収集する諸資料ならびに情報は，草創以来内外の研究者の利用に供しており，文化財に関する研究資料センターの役割を果し，多大の支持を得て今日に至っている。また，地方自治体指定の文化財目録及び文化財に関連する図書，出版物等に関

する情報の収集を行い，あわせて文化財行政に寄与するものである。

文献資料研究室

各種研究資料の収集，整理，保管，閲覧等の業務を行うとともに，毎年，日本・東洋古美術に関する雑誌論文を分類集録した文献目録を編纂して日本美術年鑑に掲載し，美術史学界はじめ関連学界に貢献している。定期刊行物所載古美術関係文献については前回の昭和11～40年の目録に引続き，昭和41年以後の目録作成準備を続行中である。

これらの業務のほか，当室研究員は，日本・東洋古美術各分野で，専門的調査研究を進めてその成果を公表しているが，今年度は別掲の科学研究費による研究を担当・分担し，また落款・印章に関する特別研究に参加した。

写真資料研究室

研究用写真資料の作成，収集，整理，保管，閲覧を行うとともに，各研究者の調査研究活動に協力して研究資料を撮影し，資料の充実につとめた。また，これに平行して，美術研究所当時に撮影したガラス製写真原板の転写を昨年度に引続き実施した。

本年は，総合研究(A)「中部地方の近世絵画」(研究代表者　名古屋大学文学部　河野元昭」の調査による撮影フィルム1,046枚，69本が河野氏より，また，昭和4・5年，和田新氏撮影の西アジア遺蹟写真1,000枚が同氏より寄贈された。

こうした作業のほか，当室研究員は，古美術研究の分野で専門的調査研究を進め，その成果を公表し，また別掲の科学研究費による研究及び特別研究に参加した。

(2)　研究調査活動

A　一般研究

1.　日本古代中世美術の研究

(1)　年紀資料研究

美術部と共同して行っている別掲特別研究として，本年は10世紀から14世紀にいたる絵画作品の中で制作年代が明記された奥書，賛，銘記などを解読，翻字する作業を進め，別記報告書の作成を行った。(宮・米倉)

調査研究

(2) 仏教絵画研究

科学研究費(一般研究A)に関連して，見返絵をもつ法華経及び観音経の中国宋・元・明の遺品を台北故宮博物院，竜谷大学図書館において調査し(宮・江上)，また東京所在個人コレクションの高麗装飾経を調査した。(江上)

(3) 山水・景物画の研究

京都国立博物館で行われた「山水一思想と美術」展出陳品ほか，日本，中国山水表現資料について調査研究を行った(江上)，また，中世絵画にみられる景観表現についてのわが国の特殊性を，地図，絵図，説話画等にわたって考察した。(宮)

(4) 絵巻研究

昨年につづいて法然上人伝絵の調査研究を継続。本年は拾遺古徳伝絵諸本の系統研究を進めた(米倉)，また，室町時代絵巻の調査を継続している。(宮)

(5) 肖像画研究

中世高僧画像の調査研究を進めるとともに，昨年度収集した土佐家粉本資料を基に室町時代の肖像画研究資料の作成に着手した。(米倉)

2. 日本近世美術の研究

(1) 室町水墨画・近世絵画の研究

水戸市茨城県立歴史館で開催された特別展に出品された，一橋徳川家所蔵絵画，雪村周継新出作品資料を含む絵画について調査ならびに詳細な写真撮影を行った。(鈴木)

(2) 中部地方の近世絵画の研究

総合研究(A)「中部地方の近世絵画」(研究代表者名古屋大学文学部　河野元昭)に前年に引きつづいて参加し，三重県，愛知県，富山県の社寺，美術館等に所蔵されている近世絵画の調査・研究を行った。(鈴木・佐藤)

(3) 関東南画の研究

先回に行った金井烏洲の作品調査につづき，渡辺崋山の作品および関連資料について，栃木県立美術館出催「渡辺崋山展」を機に調査を行い，主要作品，画稿をはじめ「全楽堂日録」等のスケッチ類を含む百点あまりについて詳細な写真撮影を実施して貴重な研究資料を得た。(米倉・鈴木・佐藤)

3. 東洋美術の研究

(1) 西域古代絵画研究

キジル壁画及びアスターナの絵画を中心に情報と資料の収集につとめた。(上野)

(2) 東洋文様史研究

当研究所所蔵拓本中の中国・日本文様史関係資料を整理し，調査研究を進めた。(江上)

(3) 中国画研究

中国近百年画家および来舶画人の伝記資料と作品の調査研究を継続している。(鶴田)

B 特別研究

「落款・印章・賛文・銘記の研究」(研究代表者　情報資料部長　宮　次男)

本研究は，わが国の中世・近世・近代の絵画・書蹟・彫刻等のうち，落款・印章・賛文・銘記を有する作品を対象として，これらの資料を極力調査収集し，その基礎資料によって，作品の鑑別，真偽の判定等を行い，作家研究を推進するものである。

実施要領

1. 中世以降，近世までの彫刻及び絵画作品にみる銘記，賛文資料を収集整理して研究を行う。
2. 本研究所が所蔵している近世画家の落款印章の写真資料をさらに充実することにより研究の進展をはかる。
3. 近代美術の分野では，明治以降主要日本画家の印譜作成を行い，洋画家については主要作品のサイン写真の収集につとめる。
4. この研究は，美術部・情報資料部の共同研究により遂行するものである。
5. 本研究は昭和53年度より始まり，本年度をもって一応の完了をみたので，その研究成果の一部として『日本絵画史年紀資料集成―10世紀～14世紀―』中央公論美術出版を刊行した。

C 科学研究費

「中世美術における伝統と大陸影響とに関する実証的研究」(一般研究(A) 研究代表者　宮次男　研究分担者　真保亨，柳澤孝，関口正之，米倉迪夫，鈴木廣之，江上綏，猪

川和子，田実栄子）

本研究は，わが国中世美術のもつ諸要因，すなわち，平安時代に形成された和様，奈良時代様式への志向，大陸美術の影響など，中世美術を形成するための基本構造を作品に即して明らかにするものである。この目的に沿って，仏画では，平安後期の文化庁保管普賢菩薩像を調査し，先年よりひきつづき，尾道市持光寺蔵釈迦八相図の調査に加えて，本年は鹿児島県竜巌寺蔵八相涅槃図の現地調査を行った。また，経絵としては平安時代の延暦寺蔵紺紙銀字法華経をはじめ，高麗時代の装飾経や，宋・元・明にわたる中国版本法華経見返絵とそのわが国における複刻版の調査を行った。絵巻では法然上人伝絵がとりあげられ，特に従来あまり研究されていない久留米市善導寺蔵伝法絵，琳阿本法然上人伝絵，拾遺古徳伝の調査を行った。彫刻では昨年度にひきつづき，清涼寺式釈迦像の調査を行い，また，東国における運慶一派の作である山梨県福光園寺蔵吉祥天及び二天像，東京個人蔵快慶作阿弥陀如来像などの調査を行った。染織関係では白石市片倉家伝来の明時代舶載裂および米沢市上杉神社蔵の明時代舶載裂使用服飾類の調査を行った。以上の調査結果は，各担当者によって「美術研究」に逐次発表されている。

「近年における日本・東洋美術史学の動向に関する研究」(一般研究(B)　研究代表者　上野アキ　研究分担者　江上綏，米倉迪夫，鈴木廣之，三輪英夫）

本研究は近年とみに発展充実の著しいわが国の日本・東洋美術史学に関し，その動向を探り将来への指標を得ようとの意図のもとに東洋・日本古代・中世・近世・近代の美術史各分野の研究者を以て組織し，近刊図書図録の収集，昭和41年以降の定期刊行物所載文献の整備，欧文による日本・東洋美術文献の収集整理を行い，また各地に出張して独自性の把握につとめた。研究方法・問題意識等に関し近年における顕著な現象として確認し得たものは次の諸点である。

1. 網羅的な美術全集の企画に一応の区切りがつき，絵巻物全集・水墨画大系・南都六大寺大観等テーマに即した密度の高い企画に移行した。2. 新設の美術館を中心に高水準のカタログ作製が目立ち，作家研究に従来の評価や視点に対する再検討が顕著に行われるとともに，従来未紹介の作家の発掘が活発に行われた。3. 歴史・民俗・宗教等人文科学各分野の研究者との共同研究により，新しい視点の獲得と視野の拡大を見た。更に保存修復を通じて自然科学との交流も常識化し，海底考古学，装飾古墳，漆

紙など新発見に伴う調査範囲の拡大は一そう学際化の傾向を助長した。4.国際交流が定着し，国際的な共同企画による「中国石窟」「中国の博物館」「西域美術」等の出版が相ついだ。在外日本美術作品に対する関心も本格化し，また日本・東洋美術を主題とする国際会議が内外で盛行した。5.海外において，東アジア美術史に対する関心が高まり，研究文献の増加も著しいが，第31回国際東洋学会議の美術部門に海外から多数の参加を見たこともこれを実証している。6.なお各地に美術資料センターが設立され，資料の重要性に着目する気運が醸成されたことも近年の著しい特色といえよう。

7. 主要研究業績

①：著書・編書　②：論文　③：解説　④：研究発表　⑤：講演・放送　⑥：その他
昭和58.4～昭和59.3

伊藤　延男（所長）

③　東大寺大仏殿　「Voice」12　58.12

⑤　数寄屋概論　日本建築セミナー　58.6

⑤　The Conservation of Cultural Properties アジア・太平洋博物館中堅職員研修セミナーユネスコ・アジア文化センター　58.10

美　術　部

真保　亨（美術部長）

①　書と絵画（共編）　『茶道聚錦』9　小学館　59.2

②　業兼本三十六歌仙絵　「美術研究」325　58.9

②　茶の湯における掛絵―その画家と作品―　『茶道聚錦』9　小学館　59.2

③　酒井抱一筆芦に白鷺図・雪竹鴛鴦図複製解題　学習研究社　58.10

③　十六羅漢像　『ボストン美術館日本絵画名品展特別図録』日本テレビ　59.3

⑤　垂迹美術　金沢文庫特別講演会　58.5

⑤　歌仙絵　美術部・情報資料部公開学術講座　58.11

⑥　絵画作品について「江戸大美術展―その記録と反響―」　国際交流基金　59.1

田村　悦子（主任研究官）

②　尹大納言絵巻に関する若干の考察　「美術研究」326　58.12

調査研究

猪川　和子（主任研究官）

② 西国の清涼寺式釈迦像　上　「美術研究」324　58. 6

② 同　下　「美術研究」327　59. 3

③ 安阿弥仏銘阿弥陀如来像　「国華」1069　58. 12

④ 大阪延命寺釈迦如来像　美術部・情報資料部研究会　58. 4

⑤ 菩薩半跏像の系譜　宝珠会　58. 5

⑤ 運慶と東国　美術部・情報資料部夏期学術講座　58. 7

田実　栄子（主任研究官）

② 徳川綱誠所用　縞麻羽織について　「美術研究」324　58. 6

④ 染織品の保存と陳列―科学的方法と伝統的方法―
韓国・檀国大学校附属民俗博物館　58. 5

④ 片倉家伝来小紋胴服（重文）及び日光山輪王寺蔵　胴着三領の復元模造
進行状況報告　特定研究Ⅰ　林孝三総括染織班発表　58. 6

④ 片倉家伝来小紋胴服（重文）の復元模造について
美術部・情報資料部研究会　58. 11

④ 染織品の保存と展示　文化財保存修復研究協議会「染織品の保存」　59. 2

⑤ 上杉家伝来謙信・景勝所用服飾類の色彩感覚等について　浅草公会堂　58. 6

柳澤　孝（第一研究室長）

③ 文化庁保管，普賢菩薩絵像　「美術研究」326　58. 12

③ 如意輪観音像，四天王像のうち広目天像・多聞天像
『ボストン美術館日本絵画名品展特別図録』日本テレビ　59. 3

④ 法界寺阿弥陀堂柱絵の研究―赤外線テレビ調査による新知見―
美術史学界第36回全国大会　58. 5

④ 赤外線テレビカメラによる法界寺阿弥陀堂柱絵の調査
東京国立文化財研究所総合研究会　58. 6

⑤ 敦煌壁画と日本の古代絵画　朝日カルチャーセンター　58. 4

⑤ 敦煌壁画　朝日カルチャーセンター　58. 4

⑤ 平安後期の仏教絵画　日本女子大学教養特別講義　58. 12

⑤ 「古代をさぐる」墨書と絵を読む　NHK（TV）　59. 3

関口　正之（第二研究室長）

② Descriptions of the rock-cut reliefs of Smaller Grotto (TAQ-I BUSTAN IV)
東京大学東洋文化研究所　59. 3

③ 房総の絵画　『房総の文化財』 学習研究社　58. 6

③ 一字金輪仏頂像，弥勒如来二侍者像，虚空蔵菩薩像
『ボストン美術館日本絵画名品展特別図録』 日本テレビ　59. 3

⑤ 日本の仏画　流山市教育委員会　58. 6

三輪　英夫（第二研究室）

② 留学時代の久米桂一郎とその素描(付年譜)
『久米桂一郎素描集』 日動出版　58. 4

② 久米桂一郎の素描　「久米美術館研究報告」I　58. 9

③ 森田元子年譜　『森田元子画集』 日動出版　58. 4

⑤ 青木繁の生涯と作品　ブリヂストン美術館土曜講座　58. 5

⑤ 近代日本洋画の展開と九州の作家達　佐賀県立美術館　58. 10

⑤ 黒田清輝の人と芸術　福井県立美術館　58. 11

⑥ 団体展評(院展，二科展他)　共同通信　58. 9

佐藤　道信（第二研究室）

③ 狩野芳崖筆岩石図　「美術研究」325　58. 9

③ 狩野芳崖筆谿間雄飛図，橋本雅邦筆雨中帰路図
『ボストン美術館日本絵画名品展特別図録』 日本テレビ　59. 3

⑥ 狩野芳崖とフェノロサ　『アーネスト・F・フェノロサ資料II』月報(2)　59. 2

芸　能　部

三隅　治雄（芸能部長）

② 民俗芸能の歴史　『日本民俗文化大系7　演者と観客』 小学館　59. 1

③ わらべうたと民謡　『ふるさと伝説の旅1～12』 小学館　58. 4～59. 3

③ 祭りと芸能　「演劇界」41―9　58. 9

③ 島じまの芸能　『日本のわざ10　南国沖縄光と技』 集英社　58. 3

③ 日本人と芸能　「文化財月報」181　58. 10

調査研究

④　日本の民俗芸能　芸能部夏期学術講座　58. 7

④　折口信夫と古代学(西村亨・岡野弘彦との鼎談)
慶応義塾大学古代学講座　58. 10

⑤　民俗芸能の祭事性　儀礼文化学会　58. 7

中村　茂子（主任研究官）

②　民俗芸能の分布—その季節的・地方的特色
実践女子大学「MUSEOLOGY」2　58. 4

③　ユニークな獅子芝居　「国立劇場民俗芸能公演」43　58. 10

③　里神楽の身振りと物真似　「国立劇場舞踊公演—日本舞踊の流れ」5　59. 1

③　心のかたちさまざま—絵馬の種類・起源　「鍼仙」316　59. 3

⑤　里神楽の源流　TBS「美を求めて」　58. 12

佐藤　道子（演劇研究室長）

①　声明大系　三　天台(共同編集)　法蔵館　58. 9

①　声明大系　五　浄土真宗(共同編集)　法蔵館　58. 11

①　声明大系　二　真言(共同編集)　法蔵館　59. 3

②　お水取り「達陀」小考　読売新聞　59. 3

③　東大寺二月堂の修二会
『全集日本の古寺11　東大寺・新薬師寺』　集英社　59. 3

⑤　声明の技法　芸能部公開学術講座　58. 12

⑤　お水取り　毎日放送・TV　59. 3

⑤　東大寺修二会　京都ホテル　59. 3

⑥　文化財保存もディジタルの時代へ　ES Review 52　58. 8

松本　雍（演劇研究室）

③　演目解説(狂言)　雷・謀生種・茶壺　和泉会　58. 5

③　能楽講座「能舞台」「楽器」「作り物と小道具」「面」
「国立能楽堂」2～7　58. 10～59. 3

③　演目解説(狂言)　柿山伏・法師ケ母・悪太郎　和泉会　58. 11

③　黒川能　『国史大辞典』四　吉川弘文館　59. 2

③　演目解説(狂言)　附子・無布施経・佐渡孤　和泉会　59. 3

蒲生　郷昭（音楽舞踊研究室長）

① 声明大系　三　天台(共同編集)　法蔵館　58. 9

① 声明大系　五　浄土真宗(共同編集)　法蔵館　58.11

① 声明大系　二　真言(共同編集)　法蔵館　59. 3

① 日本美術に表現された音楽場面―平安時代から江戸時代までの絵画にみられる楽器目録―(共同執筆)

「国立音楽大学音楽研究所年報」第5集別冊　59. 3

② 長唄正本研究⑧～⑲(共同研究)　「邦楽と舞踊」394～405　58. 4～59. 3

③ 日本音楽関係項目　『音楽大事典』5　平凡社　58. 8

③ 邦楽用語辞典　理論用語編(6)～(9)　「季刊邦楽」35～38　58. 6～59. 3

③ 音楽関係項目　『歌舞伎事典』　平凡社　58.11

③ 声明譜記号一覧　『声明大系2　真言』　法蔵館　59. 3

⑤ 邦楽における箏曲の位置について　栃木県三曲研究会　58. 4

⑥ 吉川英史著『日本音楽の美的研究』(書評)　「音楽芸術」42-3　59. 3

横道萬里雄（音楽舞踊研究室）

① 声明大系　三　天台(共同編集)　法蔵館　58. 9

① 声明大系　五　浄土真宗(共同編集)　法蔵館　58.11

① 声明大系　二　真言(共同編集)　法蔵館　59. 3

① 能は生きている　私家版　59. 2

① 幽玄の花(監修)　NHKサービスセンター　59. 3

③ 式三番と風流　「国立能楽堂」1　58. 9

③ 古本雲林院の解釈　大阪鋳仙会パンフレット　58. 9

③ 乱拍子のはなし　花柳寿南海とおどりを研究する会パンフレット　59. 3

④ 能・その演出　『幽玄の花』　59. 3

④ 謡曲の復原　東洋音楽学会　58.10

④ 能の詩型とリズム

アジア・アフリカ言語文化研究所　口頭伝承の比較研究　58.11

⑤ 能の作品と演出　NHK文化センター　58. 4～ 6

⑤ 地拍子と囃子謡　朝日カルチャーセンター　58. 7～ 8

調査研究

⑤ 能の音楽　大阪能楽観賞会　58.10

⑤ 花の話　端唄の会　58.10

⑤ 謡と囃子のしくみ　NHK文化センター　58.10～12

⑤ 寺事と声明　芸能部公開学術講座　58.12

⑤ 楽劇学の提唱　東京芸術大学　59. 3

⑥ 古作・雲林院(演出)　大阪銕仙会　58. 9

加納　マリ（音楽舞踊研究室）

③ 音楽関係項目　『歌舞伎事典』平凡社　58.11

羽田　昶（民俗芸能研究室長）

② 観阿弥の生涯　「観阿弥六百年祖先祭能」　58. 4

③ 能へのいざない　『薪能』主婦之友社　58. 4

③ 能楽関係項目　『音楽大事典』5　平凡社　58. 8

③ 能・狂言の魅力　「月刊文化財」240　58. 9

③ 能面の世界　「国立能楽堂開場記念特別展示能のおもて」　58. 9

③ 能舞台鑑賞・景清　「国文学」412　58.10

③ 能の構成　上～下　「国立能楽堂」6～7　59. 2～ 3

⑥ 1982年の能楽界　『演劇年報1983年版』　58. 5

⑥ 座談会：演能空間の今後　「劇場技術」59　59. 1

仲井幸二郎（民俗芸能研究室）

② 「芸謡」ということば　『折口信夫論文・作品の研究』桜楓社　58. 9

③ 口訳民謡集(連載)　「みんよう文化」58. 4～59. 3

ひでこ節・相馬流れ山・遠島甚句・小諸馬子唄・沢内甚句・相馬盆唄・あがらしゃれ・おてもやん・長者の山・のんのこ節・草津節・生保内節

③ 民間起源説の扱い方　「魚津国文」6　58. 6

③ 東北民謡の今と昔　『四季日本の旅』2　集英社　58. 8

③ 正月の祝唄　「日本民謡協会報」211　59. 1

③ "老いの述懐"の民謡　「魚津国文」7　59. 3

③ 囃し詞の問題　「魚津国文」8　59. 3

⑤ 童唄の伝承　第1回池田弥三郎記念公開講演会　58. 7

⑤ 民謡・東西南北(4回) 日本民謡協会講習会 58. 7～58. 8
⑤ 女のこころ・女の民俗 全国民謡民舞講習会(宇都宮) 58. 8
⑤ 類型の歌詞 水曜会(魚津) 58.10
⑤ 民謡・歌詞の種々相 全国民謡民舞講習会(札幌) 58.11
⑤ 民謡・歌詞の種々相 全国民謡民舞講習会(名古屋) 59. 2
⑤ 日本人の心の唄 第17回三和時事懇談会(名張) 59. 2
⑤ 「風の盆」の唄と踊 全国民謡民舞講習会(京都) 59. 3
⑥ 民謡讃歌・伊勢音頭の分布 日本民謡協会民謡民舞春季大会 58. 5
⑥ 能登の外浦 「源流」4 58. 9
⑥ 『日本民謡大事典』(書評) 「芸能」11 58.11

保存科学部

江本 義理(保存科学部長)

② 国見山廃寺跡出土の「和布刈宮」銭とその化学分析報告—螢光X線法と鉛同位体比法による化学的鑑定—(馬渕らと共著) 北上市立博物館研究報告 4 58. 8
② 定窯磁器の材質について 『定窯白磁』 根津美術館 58.10
② 彩色顔料の螢光X線分析による材質調査
法隆寺献納宝物『伎楽面』 東京国立博物館 59. 2
② 水中遺物の保存に関する研究—1 底質埋蔵環境内での変質(見城らと共同研究)
『遺跡・古文化財の自然科学的研究』 59. 3
② 応急処理した彩色遺物の保存に関する研究(高橋らと共同研究)
『遺跡・古文化財の自然科学的研究』 59. 3
② 鷹島床浪海底底質堆積物について
床浪海底遺跡鷹島町床浪改修工事に伴う緊急報告調査報告書 59. 3
③ 青銅病対策と人工着色(保存科学と銅3) 「銅」39 58. 6
③ 銅・真鍮の始源をめぐって(保存科学と銅4) 「銅」40 58. 9
③ 水中考古学—水中遺物・特に開陽丸引揚げ遺物の保存
「化学の領域」37—9 58. 9
③ 歴史資料の保存科学 史料館報40 59. 3

調査研究

③ 装館古墳の保存　「化学と工業」37—3　59. 3

④ Coloring Materials used on Japanese Tumulus Fainting(山崎と共同研究)
第7回国際研究集会　58. 11

④ 辛亥銘鉄剣の展示について　昭和59年度日本文化財科学会大会　59. 3

⑤ 文化財の材質研究法　大韓民国文化財管理局文化財研究所　58. 10

⑤ 歴史資料の保存科学　近世史料取扱講習会(国立史料館)　58. 10

⑤ 文化財の材質研究　鑑識科学研究発表会(科学警察研究所)　58. 10

⑤ 保存科学総説
昭和58年埋蔵文化財発掘技術者専門研修(保存科学基礎課程)　58. 11

⑤ 文化財の材質と劣化
第5回文化財虫黴害保存研修会(財・文化財虫害研究所)　58. 9

⑤ 保存科学総論
昭和58年埋蔵文化財発掘技術者専門研修(保存科学応用課程)　59. 2

⑤ 文化財の保存と環境
昭和58年指定文化財(美術工芸品)修理技術者講習会　58. 10

⑤ 文化財の保存と活用　昭和58年文化財取扱い講習会(岩手県立博物館)　59. 1

⑥ 国際研究集会「壁画の保存」I (三浦と共著)　「月刊・文化財」245　59. 2

⑥ 文明と物質(斉藤・武居と共同研究発表)
東北大学開放講座(東北大学教育開放センター)　58. 10

門倉　武夫(主任研究官)

② 台の内遺跡における箱式石棺の埋蔵環境調査(新井・見城と共著)
千葉県教育委員会報告書　59. 3

② 竜角寺古墳群第24号墳石棺内部空気組成　千葉県教育委員会報告書　59. 3

④ Exhibition of the Wall-Paintings of the Tumulus Tora-zuka
The 7th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property
—Conservation and Restoration of Mural Paintings (1)—　58. 11

石川　陸郎(主任研究官)

② 博物館・美術館の照明　神奈川県立博物館だより16—3　58. 12

⑤　文化財に対する光学的調査法　　韓国文化財管理局文化財研究所　58. 5

⑤　古建築に対する放射線の利用　　文化財建造物保存協会　59. 3

見城　敏子（物理研究室長）

②　鹿の子C遺跡漆紙文書付着物質の同定

茨城県教育財団文化財調査報告20　58.10

②　湿度調節剤に関する研究(第2報)

高湿度下における湿度調節剤について　　「保存科学」23　59. 3

②　台の内遺跡における箱式石棺の埋蔵環境調査(新井・門倉共著)

千葉県教育委員会報告書　59. 3

②　竜角寺古墳群第24号墳石棺内の特殊環境調査　千葉県教育委員会報告書　59. 3

②　寿能泥炭層遺跡から出土した有機性遺物の同定

寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書　59. 3

②　菜畑遺跡の出土木器の塗膜の同定　　佐賀県教育委員会報告書　59. 3

④　文化財保存環境　　国際修理・保存セミナー　ハンガリ・ユネスコ共催　58. 6

⑤　文化財の保存について　　江東区芭蕉記念館　58.10

⑤　漆塗膜の現代への応用　　ユーザ・テクニカル・スクール(年3回)　58. 4　58. 5　58. 6

⑤　文化財の環境　　群馬県立歴史博物館　58. 6

⑤　書籍・古文書等　　書籍・古文書等の虫・黴の保存対策研修会　58. 6

⑤　漆の硬化のしくみと塗膜と特性　　技術開発研究成果普及講習会　58.11

三浦　定俊（物理研究室）

②　石造遺跡の凍結—融解による破壊と樹脂による防止効果の実験(その2)

(福田・西浦と共著)　　「雪氷」45—4　58.12

②　X線フィルムの青銅と桧材に対する濃度特性(呉屋・大崎・金子と共著)

「古文化財の科学」28　58.12

②　石造遺跡の凍結破壊と樹脂による防止効果の実験(第2報)

(福田・西浦と共著)　　「保存科学」23　59. 3

③　計測の眼でみた文化財とその保存　　「計測と制御」22—8　58. 8

③　仏像調査へのX線CTの適用　　「インスペクションニュース」2—1　59. 1

調査研究

③ 文化財のX線透視撮影 「検査機器ニュース」573 59. 1

③ 赤外線テレビカメラ

『光学的方法による古美術品の研究(増補版)』 吉川弘文館 59. 3

④ X線CTによる仏像の調査 NDI005特別研究委員会 58. 4

④ 化学糊で裏打ちした和紙の劣化(尾関・大江・小谷野と共同研究)

第5回古文化財講演会大会 58. 5

④ 黒化した顔料の分光スペクトルによる推定 第22回 SICE 学術講演会 58. 7

④ Scientitif Training in the Conservation of Wooden Cultural Property

ICOM Conservation Committee TCR(Dresden) 58. 9

④ Temperature and Humidity in the Tumulus Takamatsuzuka

(斎藤と共同研究) 第7回国際研究集会 58. 11

⑤ 科学写真撮影の実際 昭和58年度指定文化財修理技術者講習会 58. 10

⑤ さわらないで文化財を測る 東京大学工学部特別講義 58. 12

⑥ 国際研究集会「壁画の保存」I(江本と共著) 「月刊文化財」245 59. 2

⑥ 日本の古墳保存の問題についての考察(J. ブリュネ著, 原文仏文翻訳)

「保存科学」23 59. 3

馬渕 久夫(化学研究室長)

② 国見山廃寺跡出土の「和布刈宮」銭とその化学分析報告—螢光X線法と鉛同位体比法による化学的鑑定—(江本らと共著) 「北上市立博物館研究報告」4 58. 3

② No. 9 遺跡1号住居址出土銅鏃の鉛同位体比(平尾と共著)

「横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書」 58. 4

② 宇佐市別府出土朝鮮式小銅鐸の鉛同位体比(平尾と共著)

「古文化談叢」12 58. 8

② 鉛同位体比法による太安萬侶墓誌銅板および武蔵国分寺附近出土銅造仏の原料産地推定(江本らと共著) 「古文化財の科学」28 58. 12

③ 銅鐸の謎をめぐって 「自然」449 58. 6

③ 鉛同位体比と古代青銅器 「化学の領域」37—9 58. 9

③ 銅鐸原料の産地 「ぶんせき」106 58. 10

③ 同位体比を利用した青銅器の産地推定 「Isotope news」352 58. 10

③ わが国の考古学年代と鉛　「化学と工業」37—3　59. 3

④ 鉛同位体比による日本上古・銅製品の産地推定(平尾と共同研究)
昭和59年度日本文化財科学会大会　59. 3

新井　英夫(生物研究室長)

① 文化財・美術品の菌類(共著)　『菌類研究法』 共立出版　58. 6

① 書籍害虫(森・町田と共著)　『家屋害虫』 井上書院　59. 1

② 収蔵物の保存法　—生物による被害とその防除法—
「空気調和・衛生工学」57　58. 8

② 韓国文化財研究所との技術交流　「文化財の虫菌害」7　58. 11

② 紙質類文化財の保存に関する微生物学的研究(第1報)
紙の褐色斑(foxing)から糸状菌の分離　「保存科学」23　59. 3

③ わが国における文化財の生物劣化に関する研究史(Ⅱ)(森と共著)
「文化財の虫菌害」6　58. 5

④ 文化財のホルムアルデヒド燻蒸　第5回文化財科学研究会講演会大会　58. 5

④ Fungally—Induced Deterioration of Cultural Properties and Its Control in Japan, The 3 rd International Mycological Congress, Tokyo.　58. 8

④ Microbiological Studies on the Conservation of Mural Paintings in Tumnli, The 7th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property
-Conservation and Restoration of Mural Paintings (I)-　58. 11

⑤ 紙類の微生物による被害(第5回書籍・古文書等のむし・かび害保存対策研修会)
㈶文化財虫害研究所　58. 6

⑤ 文化財の微生物による被害とその防除(第5回文化財虫黴害保存研修会)
㈶文化財虫害研究所　58. 9

⑤ 文化財の燻蒸処理(第3回文化財の燻蒸処理実務講習会，森と共同発表)
㈶文化財虫害研究所　58. 11

⑤ 文化財と黴・害虫およびその防除法　指定文化財修理技術者講習会　58. 11

⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
㈶文化財虫害研究所　59. 2

調査研究

⑤ ガラス等の生物被害　ガラス表面と表面処理講習会　59. 2

森　八郎（生物研究室）

① 家屋害虫(共著)　井上書院　59. 1

① シロアリ，キクイムシ『木造建築物等防腐・防蟻・防虫処理技術指針・同解説』
㈳日本しろあり対策協会　58. 6

② ホキシム(Phoxim)を主剤とする殺蟻剤の効力試験
「文化財の虫菌害」7　58. 11

② 硼素化合物による防蟻処理（第1報）　「保存科学」23　59. 3

③ 文化財と昆虫(3)　「環境衛生」30(3)　58. 4

③ わが国における文化財の生物劣化に関する研究史(Ⅱ)(新井と共著)
「文化財の虫菌害」6　58. 5

③ 文化財と昆虫(4)　「環境衛生」30(5)　58. 6

③ 文化財と昆虫(5)　「環境衛生」30(8)　58. 9

③ 文化財害虫とその防除対策(1)主要な文化財害虫　「環境管理技術」1(3)　58. 10

③ 文化財と昆虫(6)　「環境衛生」30(10)　58. 12

④ 硼素化合物による防蟻処理　日本衛生動物学会東日本支部第35回大会　58. 10

④ 木質文化財(建造物・木彫など)の硼素化合物による安全防虫処理工法
日本文化財科学会研究発表会　59. 3

⑤ 文化財の虫害対策　群馬県立歴史博物館　58. 6

⑤ 書籍・古文書等を加害する昆虫とその被害対策(第5回書籍・古文書等のむし・かび害保存対策研修会)　㈶文化財虫害研究所　58. 6

⑤ 文化財の虫害と防除(第5回文化財虫黴害保存研修会)
㈶文化財虫害研究所　58. 9

⑤ 文化財の燻蒸処理(第3回文化財の燻蒸処理実務講習会，新井と共同発表)
㈶文化財虫害研究所　58. 11

⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
㈶文化財虫害研究所　59. 2

⑤ 家屋内一般害虫とその防除(第19回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会)
㈶日本環境衛生センター　59. 3

⑥　虫ばまれる文化財　東京新聞その他　58.11

修復技術部

鈴木　友也（修復技術部長）

①『和歌山県の文化財』第１巻（共著）　58. 2

②　神輿の発生とその流れ―鞆渕八幡神輿を中心として―　「ミューゼアム」　58.11

②　内藤四郎の彫金技法―伝統的彫金の動向―　「月刊文化財」　58.10

③　彫金の部の審査に加って　「刀剣美術」　58. 7

⑤　古代・中世の金工―種類と技術―　東京国立博物館夏期講座　58. 7

⑤　鎌倉の金工　金沢文庫　59. 2

⑤　鎌倉時代の金工　美術部・情報資料部夏期学術講座　58. 7

中里　寿克（第一修復技術研究室長）

②　初期蒔絵論　「国華」1069　58.11

②　漆芸技法―漆木屎と漆地拾について―　『法隆寺献納宝物　伎楽面』　59. 2

西浦　忠輝（第一修復技術研究室）

②　石造遺跡の凍結―融解による破壊と樹脂による防止効果の実験〔その２〕（福田・三浦と共著）　「日本雪氷学会誌」45―5　58.12

②　古建築の外装漆塗装の特性に関する実験的研究（第１報）；漆塗膜の剝離強度（その１）　「保存科学」23　59. 3

②　石造遺跡の凍結―融解による破壊と樹脂による防止効果の実験（その２）
―石造文化財の凍結―融解による劣化とその防止法に関する研究〔Ⅳ〕（福田・三浦と共著）　「保存科学」23　59. 3

④　石造薬剤処理効果，処理時の石の含水率との関係
第５回古文化財科学研究会講演会大会　58. 5

④　漆塗膜の密着強度に関する実験的研究　第１回日本文化財科学会大会　59. 3

⑤　材料（特殊材料）　昭和58年度文化財建造物修理主任技術者講習会　58. 9

⑥　重文・園比屋武御嶽石門修理に関する調査指導報告書（Ⅲ）
文化庁提出，所内報告　58. 6

調査研究

増田　勝彦（第二修復技術研究室長）

② Restoration Treatment of Takamatszuka Wall Painting

第7回文化財保存修復に関する国際シンポジウム　58.11

⑤ Conservation and Art

オーストラリア文化財保存修復協会10周年記念大会　58. 9

⑥ 和紙の寿命の今昔　サンケイ新聞　58.10

⑥ 八女紙　文化財建造物修理用資材需給等実態調査報告　58.11

樋口　清治（第三修復技術研究室長）

② 出土土器補修用の新材料（今津節生と共著）　「保存科学」23　59. 3

④ 顔料彩色の合成樹脂による剥落どめと処置後の色調変化について（山宮正三と共同研究）　古文化財科学研究会講演会大会　58. 5

⑤ 文化財の保存・修復と合成樹脂　文化財虫微害保存研修会　58. 9

⑤ 合成樹脂　美術工芸品修理技術者講習会　58.10

⑤ 保存科学　東京農工大学　58. 8

⑤ 文化財修復に用いる合成樹脂　東京芸術大学美術学部美術教育教室　59. 1

⑤ 出土遺物保存材料　埋蔵文化財発掘技術者研修会　59. 2

情報資料部

宮　次男（情報資料部長）

① 『春日権現験記絵』（日本の美術203）　至文堂　58. 4

② 装飾経にみる信仰美　「太陽・仏の美と心シリーズ」3　58. 8

② 宋元版本にみる法華経絵　上・下　「美術研究」325・326　58. 9・12

③ 地獄草紙断簡・平治物語絵巻

『ボストン美術館日本絵画名品展特別図録』　日本テレビ放送網株式会社　59. 3

⑤ 古代の仏画　小平市立上宿公民館　58. 6

⑤ 法華経と絵画　同　上　58. 7

⑤ 絵巻の世界　同　上　58. 7

⑤ 鎌倉絵巻の特色　美術部・情報資料部夏期学術講座　58. 7

江上　綏（主任研究官）

① 日本文様の源流　日本経済新聞社　58. 10

② 延暦寺蔵紺紙銀字法華経の荘厳画　「美術研究」327　59. 3

④ Landscape Depiction in Sutra Ornamentation in the Heian Period
—With Special Reference to Lotus Sutra Ornamentation—
第31回国際アジア北アフリカ人文科学会議　58. 9

⑤ 平安時代の写本装飾　国際基督教大学博物館　58. 3

⑥ Landscape Depiction in Sutra Ornamentation in the Heian Period
—With Special Reference to Lotus Sutra Ornamentation—(発表要旨)
Rroceedings of the 31st CISHAAN　59. 3

米倉　迪夫（主任研究官）

② 琳阿本「法然上人伝絵」について　「美術研究」324　58. 6

③ 日本古典文学大辞典　第1，2巻　岩波書店　58. 10，59. 1

上野　アキ（文献資料研究室長）

② ＜中国石窟・キジル千仏洞＞への期待—キジル研究の歩み
『中国石窟』平凡社　月報6　58. 6

④ Paintings of Astāna and Excavated Literature
第31回国際アジア北アフリカ人文科学会議　58. 9

⑤ アジアの美術史・中央アジア　朝日カルチュアセンター

4. 地底の呟き—アスターナ　58. 4

5. 誓願図の嘆き—ベゼクリク　58. 5

6. ジャータカの世界—キジル　58. 5

⑤ 仏教美術の花—キジル石窟　朝日歴史教室「西域の美と古都」　58. 10

⑤ アスターナの絵画　美術部・情報資料部公開学術講座　58. 11

⑤ 近代における中央アジア遺蹟の調査　東京国立文化財研究所総合研究会　59. 3

⑥ Painting of Astāna and Excavated Texts(発表要旨)
Proceedings of the 31st CISHAAN　59. 3

鶴田　武良（写真資料研究室長）

② 近代中国画人伝5　嶺南三家—高剣父・高奇峰・陳樹人
「季刊水墨画」24　58. 4

調査研究

② 羅雪谷と胡鉄梅—来舶画人研究 「美術研究」324 58. 6

② 近代中国画人伝6 李苦禅・潘天寿1 「季刊水墨画」25 58. 7

② 近代中国画人伝7 李苦禅・潘天寿2 「季刊水墨画」26 58. 10

② 何元鼎と梁基—沈南頻の周辺—来舶画人研究五 「国華」1069 58. 12

② 王克三と徐雨亭—来舶画人研究六 「国華」1070 59. 1

② 中国画家訪問記1 鄧林女史 「季刊水墨画」27 59. 1

③ 費晴湖筆山水図 「国華」1066 58. 9

③ 書画の周辺2 書画軸の整理の仕方 「季刊水墨画」27 59. 1

④ 新出の南頻風作品について 美術史学会36回全国大会 58. 5

④ 沈南頻の周辺 美術部・情報資料部研究会 58. 6

⑤ 現代中国絵画の動向—画家とその生活 女子美術大学 58. 12

⑤ Turning Point to Modern Painting in China カンサス大学 59. 2

⑤ Western Influence to Modern Chinese Painting カンサス大学 59. 2

⑤ Special Character of Chinese Painters who came to Japan in the Edo Period カンサス大学 59. 3

⑥ 中国花鳥画の描法(翻訳) 日貿出版社 58. 4

⑥ 中国山水画の描法(翻訳) 日貿出版社 58. 7

⑥ 中国人物画の描法(翻訳) 日貿出版社 58. 12

⑥ 中国の文化財保護法について(翻訳) 「文化財月報」244 59. 1

鈴木 廣之(写真資料研究室)

① 『名宝日本の美術17 永徳・等伯』 小学館 58. 11

③ 研究資料 廻国道の記(1) 「美術研究」327 59. 3

⑤ 長谷川等伯について MOA美術館 58. 5

8 その他の研究活動

ほかの機関における講義など

(氏 名)	(機 関 名)	(担当科目)
伊 藤 延 男	明治大学工学部非常勤講師	文化財保存特論講義

主要研究業績

柳沢　孝	慶応義塾大学文学部非常勤講師	美術史特殊(東洋)
関口正之	武蔵野美術大学非常勤講師	日本美術史概説
田村悦子	青山学院大学非常勤講師	美術
猪川和子	東京女子大学非常勤講師	日本史特殊講義
田実栄子	大妻女子大学非常勤講師	服飾史特論
三輪英夫	成城大学非常勤講師	日本近代美術史・演習
三隅治雄	お茶の水女子大学非常勤講師	舞踊美学特論
	筑波大学非常勤講師	比較民俗学特講
蒲生郷昭	東京芸術大学音楽学部非常勤講師	音楽学
羽田　昶	武蔵野女子大学非常勤講師	中世文学演習
江本義理	図書館情報大学非常勤講師	図書館資料保存法
	東京芸術大学美術学部非常勤講師	保存科学特講
馬渕久夫	東京都立大学非常勤講師	機器分析化学講究
鈴木友也	東京芸術大学美術学部非常勤講師	文化財保存修復概論
樋口清治	東京農工大学工学部非常勤講師	保存科学
上野アキ	東京女子大学非常勤講師	美術
江上　綏	埼玉大学教養学部非常勤講師	日本の芸術

Ⅳ 事　　業

1 出　　版

(1) 美術研究

美術部・情報資料部所属の研究員による美術に関する調査研究の成果を公表するための機関誌で，論文・研究資料・図版解説・美術関係文献の校刊を掲載し，なお所外研究者の寄稿を受けることもある。本誌は美術部の前身である美術研究所の開設後間もない昭和７年１月に創刊され，爾来57年度末までに323号が出版された。57年度から季刊発行となり，58年度は，324号から327号までが下記の内容で刊行された。Ａ４版，各号本文40頁(欧文抄録２頁を含む)，原色図版１，単色図版８。

美術研究　324号（昭和58年６月発行）　頁

西国の清涼寺式釈迦如来像　上　猪川　和子…… 1

琳阿本「法然上人伝絵」について　米倉　迪夫…… 9

羅雪谷と胡鉄梅　―来舶画人研究―　鶴田　武良……23

徳川綱誠所用　縞麻羽織について　神谷　栄子……30

美術研究　325号（昭和58年９月発行）

本土寺所蔵　観音経絵について　宮島　新一…… 1

業兼本三十六歌仙絵　真保　亨……10

宋・元版本にみる法華経絵（上）　宮　次男……25

狩野芳崖筆　岩石図(図版解説)　佐藤　道信……37

美術研究　326号（昭和58年12月発行）

尹大納言絵巻に関する若干の考察　田村　悦子…… 1

宋・元版本にみる法華経絵（下）　宮　次男……17

文化庁保管　普賢菩薩絵像(図版解説)　柳澤　孝……33

美術研究　327号（昭和59年３月発行）

延暦寺蔵紺紙銀字法華経の荘厳画　江上　綏…… 1

出　　版

西国の清涼寺式釈迦如来像　下　　猪川　和子……22

廻国道の記１（研究資料）　　鈴木　廣之……33

(2)　日本美術年鑑

毎年１月初から12月末までの美術界の活動状況を記録するもので，美術界年史，展覧会記録，文献目録，物故者略歴等を収録する。美術部，情報資料部の研究員が調査執筆を行い，美術部第二研究室が編集している。本年度は昭和56年の内容をもった昭和57年版を刊行した。Ｂ５版，292頁。

日本美術年鑑・昭和57年版（昭和59年３月発行）　頁

昭和56年美術界年史…… 1

美術展覧会（現代美術・西洋美術）…… 7

美術展覧会（東洋古美術）…… 150

美術文献目録（定期刊行物所載）（現代美術・西洋美術）…… 157

美術文献目録（定期刊行物所載）（東洋古美術）…… 239

物故者…… 268

(3)　日本絵画史年紀資料集成（10世紀～14世紀）

美術部・情報資料部の特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」は６年目の最終年次に当り，これまで収集した基礎資料のうち10世紀から14世紀までの絵画関係について，制作年代が明記される作品324件の年紀資料の全文を年代順に配列し，併せてそれらの写真を図版として収め刊行した。Ａ５版。本文340頁。図版84頁。

(4)　音盤目録

音盤目録 Ⅲ 改訂版

芸能部が定めた「音盤カード記入規定」の変更にあわせて，昭和53年に刊行した『音盤目録 Ⅲ 音楽』を改訂し，同時に若干の増補と訂正・統一を行った。

(5)　保存科学

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査，研究，受託研究報告等

の論文，報告および修復処置概報等を掲載している。本年度は第23号を発行した。

保存科学　第23号（昭和59年３月発行）

石造遺跡の凍結破壊と樹脂による防止効果の実験(第２報)
——石造文化財の凍結—融解による劣化とその防止法に関する研究(Ⅳ)
……福田正己・三浦定俊・西浦忠輝……1
湿度調節剤に関する研究(第２報)
——高湿度下における湿度調節剤について——
……見　城　敏　子……13
出土土器補修用の新材料……樋口清治・今津節生……19
紙質類文化財の保存に関する微生物学的研究(第１報)
紙の褐色斑(foxing)から糸状菌の分離
……新　井　英　夫……33
硼素化合物による防蟻処理(第１報)……森　　八　郎……41
古建築の外装漆塗装の特性に関する実験的研究(第１報)
——漆塗膜の剝離強度(その１)……西　浦　忠　輝……55
日本における古墳保存の問題についての考察
……ジャック・ブリュネ・三浦定俊(訳)……75
昭和58年度修復処置概報……修 復 技 術 部……79

(6)　国際研究集会プロシーディングス

The Sixth International Symposium on th Conservation and Restoration of Cultural Property—the Conservation of Wooden Cultural Property—(1983)

「木造文化財の保存」を主題とし，保存科学部・修復技術部担当のもとに開催された国際研究集会(57.11.1～11.6)における発表論文・質疑応答・総合討議を収めたプロシーディングス(英文)を刊行した。内容は下記の通りである。

Masaru SEKINO :　Aspect of Japanese Wooden Buildings

Hiroshi DAIFUKU :　The Conservation of Wood

Ernest MARTIN :　Typology of Rural and Domestic Constructions in Wood in Central Europe and in Switzerland

Kyung Ho CHANG : A Study of Structural Styles of Korean Wooden Constructions and Their Characteristics

Rechard ALLOM : Primitive Vernacular Buildings in Australia A Review

Lourdes Oseguera ITURBIDE : The Stalk Sculptures of Mexico

Hideo SUGIYAMA : Japanese Representative Woods—HINOKI and SUGI—

Anand Singh BISHT : Conservation Problems of Wooden Property in the National Museum, New Delhi

Panu KAILA : Preserving a Wooden Building as a Museum Object

Dukut SANTOSO : Problems on the Conservation of Wooden Structures in Indonesia

Kyotaro NISHIKAWA : Conservation of Wooden Sculpture

Hisayuki ONODERA : The Repair of the Wooden Sculptures

Kakichi SUZUKI : Restoration of Wooden Buildings

Kunisuke HORIOKA and Seiji HIGUCHI : Repairing of Wooden Constructed Cultural Property with Polyurethane Resin Adhesive

Chaudhary REHMAT ULLAH : Preservation of Wooden Cultural Properties in Pakistan with Special Reference to Pest Control

Nils MARSTEIN : Mediaeval Wooden Churches in Norway. Maintenance and Conservation

Bernard M. FEILDEN : Teaching Conservation of Wooden Structures

Frederick CHARLES : Problems of Preservation of Lesser Historic Buildings in England

Masao TAKAHASHI : The Development of Training Programme for Conservators of Wooden Architectural Monuments in Japan

Ronald COCKROFT : Some Things that a Trainee Should Be Taught about Wood and Wood Preservation

Vladimir A. VELEV : Cultural Monuments in Bulgaria, Made of Wood

Marcel STEFANAGGI : Study of Wood Polychromed Sculpture from 12th Century and Problems of its Restoration

事　　業

Upendra Nath SAPKOTA : Wooden Objects of Nepal

Norman R. WEISS : Three Research Problems

Paulo MORA and Giorgio TORRACA : A Project for an International Course on Wood Conservation Technology

Gertrude TRIPP : Notes on the Paper of Prof. P. Mora and G. Torraca

Alfred N. WALUSE : Speech by the Guest Observer

Overall Discussion

Final Report

Panel Session

2　黒田清輝巡回展

黒田清輝の遺作の多くを所蔵している本研究所は，黒田清輝の功績を記念し併せて地方文化の振興に資するために，昭和52年度からの事業として黒田清輝巡回展を年1回地方において開催してきた。

本年度は特に地元の要請により福井市で開催した。

会　　場　福井県立美術館

会　　期　昭和58年11月23日～昭和58年12月11日

主　　催　東京国立文化財研究所・福井県立美術館・福井県教育委員会

開催日数　19日間

入場者数　3,233人

陳列点数　油彩・パステル60点，木炭デッサン50点，写生帖17点，書簡3点，日記5冊，参考資料若干

図　　録　A4判変型，114頁，原色版6頁，単色版80頁

3　公開学術講座

美術部・情報資料部（第17回）

日　時　昭和58年11月12日(土)　13：30～16：30

会　場　日本経済新聞社小ホール(9階)

講　演　(1)　歌仙絵　　美術部長　真保　亨

(2)　アスターナの絵画　　情報資料部文献資料研究室長　上野　アキ

芸能部（第15回）

日　時　昭和58年12月12日(月)　17：50～20：30

会　場　朝日ホール

テーマ　声明の技法

講　演　(1)　寺事と声明　　音楽舞踊研究室　横道萬里雄

(2)　読経と声明　　演劇研究室長　佐藤　道子

演　唱　　華厳宗　守屋　弘斎・森本　公誠

天台宗　水尾　真寂・水尾　寂芳

真言宗豊山派　孤島　由昌・新井　弘順

4　夏期学術講座

美術部・情報資料部（第１回）

美術部・情報資料部においては文化財保護の専門家あるいは博物館・美術館等の学芸員の研究進展とその業務に役立てるため，当研究所の研究員が専門分野において有形文化財の調査研究の理論と応用の実際を講義指導する趣旨のもとに，東京国立文化財研究所会議室(２階)を会場とし，別表のような日程と演題で２日間にわたり夏期学術講座を実施した。受講対象者については地方公共団体の文化財担当職員，博物館・美術館等の学芸員，大学院生又は大学院修了者で将来上記職員を希望する者と限定し，年令は30才未満とした。本年度の受講者は26名。

別表　　テーマ　―鎌倉時代の美術Ⅰ―

■７月18日■		
10：10～10：20	開会の辞	所長　伊藤　延男
10：20～12：00	「大仏様の建築」	所長　伊藤　延男
13：20～15：00	「運慶と東国」	美術部主任研究官　猪川　和子
15：10～16：00	所内見学	

事　　業

■7月19日■		
10：20～12：00	「鎌倉の金工」	修復技術部長　鈴木　友也
13：20～15：00	「鎌倉絵巻の特色」	情報資料部長　宮　　次男

芸　能　部

日　時　昭和58年7月4日～7日　毎日10：30～16：30

会　場　東京国立文化財研究所会議室

テーマ　日本の民俗芸能　　三隅　治雄

5　会　　議

文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

昭和52年度より国際シンポジウムを毎年開催してきたが，本年度(第7回)は「壁画の保存」をテーマとして，保存科学部の担当で開催した。我が国には装飾古墳，寺院等の壁画があるが，それらは材質の脆弱性に加え，変化の大きい温湿度環境等のため保存上問題が多い。環境によってこの問題を①地中にある壁画の保存，②建造物に付随する壁画の保存に分け本年度は①を主題に取り上げ，「壁画の保存—I」とした。

講演者は海外8名，国内11名であった。講演は下記のように6セッションに分けて行われた。日程は次の通りである。

名　称　壁画の保存(I)
—第7回文化財の保存修復に関する国際研究集会—
International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Conservation and Restoration of Mural Paintings (I)

日　時　昭和58年11月17日(木)～21日(月)

場　所　国立社会教育研修所

(題名及び発表者)

11月17日(木)

Enviromental Protection of Mural Paintings (洞窟壁画の環境保存)

会　　議

イクロム副所長　イタリア　G. トラッカ

第1セッション（各国に於ける問題）

1. Conservation of Wall-Paintings in Caves and Tumuli of China（中国に於ける石窟寺，古墓の壁画の保護）　文物保護科学技術研究所　中国　祁　英濤

2. Problems of Conservation of Wall Paintings in India（インドに於ける壁画保存の環境，　国立文化財研究所　インド　K. K. ジャイン

3. Aproaches to the Conservation of Mural Paintings in Underground Structures（地下建造物の壁画の保存）

イクロム　イタリア　P. シュバルツバウム

4. Exhibition of the Wall-Paintings of the Tumuls Tora-zuka（虎塚古墳壁画の公開）　東京国立文化財研究所　門倉　武夫

11月18日（金）

第2セッション（日本の装飾古墳）

5. Mural Paintings in the Tumuls Period（装飾古墳の壁画）

九州大学　岡崎　敬

6. The Wall-Paintings of the Tumuls Takamatsu-zuka（高松塚古墳の壁画）

学習院大学　秋山　光和

7. Excavation and Short Historical Survey of Takamatsuzuka Ancient Tumuls（高松塚古墳の発掘とその歴史）　奈良国立文化財研究所飛鳥資料館　猪熊　兼勝

第3セッション（環境）

8. Preservation Facilities for the Tumuls Takamatsu-zuka（高松塚古墳の保存施設）　入江・三宅設計事務所　三宅　晋

9. Temperature and Humidity in the Tumuls Takamatsu-zuka（高松塚古墳の温湿度）　東京国立文化財研究所　三浦　定俊

10. Microbiological Studies on the Conservation of Mural Paintings in Tumuli（装飾古墳の保存に於ける微生物学的研究）

東京国立文化財研究所　新井　英夫

11. Preservation of Ornamented Caves of France（フランスに於ける装飾洞窟の保存）　歴史記念物研究所　フランス　J. ブリュネ

事　　業

11月19日(土)

第4セッション（材質）

12. Coloring Materials Used on Japanese Paintings of the Protohistoric Period, and Related Topics（原始時代の日本絵画に用いられた彩色材料）

名古屋大学名誉教授　山崎　一雄

13. Rock Weathering Processes by Frost upon the Wall Carvings and Its Preservation（線刻壁画の岩石の凍結による風化過程と保存対策）

北海道大学低温科学研究所　福田　正己

14. Water Repellents as Moisture Barrier for Damp Walls（撥水剤の防湿効力）　王立文化財研究所　ベルギー　E. デ・ウイット

11月20日(日)

史跡虎塚古墳見学（招待講演者及び所内関係者）

11月21日(月)

第5セッション（修復）

15. The Treatment of Excavated Fragmentary Wallplaster（発掘された漆喰壁画断片の処置）　ロンドン大学考古学研究所　イギリス　E. バイ

16. Practical Observation about Opening and Conservation Work on Painted Ancient Tomb（古代装飾墳墓の保存）

ポール・ゲティ博物館　アメリカ　Z. パロヴ

17. Restoration Treatment of the Takamatsuzuka Wall Paintings（高松塚古墳壁画の修復修理）　東京国立文化財研究所　増田　勝彦

第6セッション（総合）

18. A Review of the Conservation of Ornamented Tumuli（装飾古墳保存総説）　文化財保護審議会委員・東京大学名誉教授　関野　克

総合討議　司会　伊藤　延男

＜参加者＞

文化庁及び付属機関，諸博物館・美術館等職員，諸大学研究者及び修復技術者等98名。

保存科学部・修復技術部

第13回文化財保存修復研究協議会

日　時　昭和59年２月23日

会　場　東京国立文化財研究所会議室

主　題　染織品の保存

染織品に関する保存・修復の現状と問題点およびその材質および技術に関する科学的基礎研究の討議を行った。

文化庁文化財保護部長，文化財鑑査官，美術工芸課長以下美術工芸課，無形文化民俗文化課の各担当官，東京国立博物館，京都国立博物館，奈良国立博物館，奈良国立文化財研究所，国立歴史民俗博物館，元興寺文化財研究所，古文化財の科学研究会の染織品の保存の出席を得た。参加者は60名であった。

（発表課題，発表者）

1. 近年の染織展の動向　東京国立近代美術館工芸課主任研究官　石村　速雄
2. 欧州における染織品の保存と展示　修復技術部第二修復技術研究室長　増田　勝彦
3. 上代裂の保存について　東京国立博物館学芸部法隆寺宝物室長　奥村　秀雄
4. 染織品の保存・展示について　美術部主任研究官　田実　栄子
5. 古代染料の劣化とその保存　共立女子大学家政学部教授　柏木　希介
6. 絹の劣化と保存　東京農工大学工学部教授　平林　潔
7. 染織品の樹脂加工について　修復技術部第三修復技術研究室長　樋口　清治

第12回文化財保存科学懇談会

日　時　昭和59年３月２日（金）

場　所　東京国立文化財研究所会議室

文化財の保存と修復に関し，東京国立文化財研究所保存科学部，修復技術部の調査研究が円滑に推進され，文化財保存事業に効果をもたらすことを目的とし，文化庁文化財保護部長，文化財鑑査官，管理課長，美術工芸課長および建造物課，美術工芸課，記念物課の担当官の出席を得て，本年度における両部の特別研究，受託研究，一般研究の報告を行い，昭和59年度の両部の調査研究計画について説明し懇談した。なお，

事　　業

保存科学部，修復技術部の他，美術部，芸能部，情報資料部とも文化庁関係部門との研究連絡を密にするための方策を協議した。

6　国際・国内交流

美　術　部

田実栄子主任研究官は，韓国ソウル市の檀国大学校より招請され，同大学校主催の「繊維(文化財)の科学的保存法」の共同研究と共同資料調査のため出張した(58.5.1～58.5.10)。共同研究のテーマの一環として「染織品の保存と陳列—科学的方法と伝統的方法—」の研究発表を行い(58.5.2)，その後(58.5.3以降)檀国大学校附属石宙善紀念民俗博物館及び世宗大学附属世宗博物館(この二つの博物館が韓国では染織品を多数所蔵する代表的な博物館)の所蔵品を主とした共同調査に参加し，作品に対する意見の交換と，作品の展示法や保存対策についての検討を行い，作品個々の現状に適した展示法・保存法を指導した。

芸　能　部

佐藤道子演劇研究室長は，昭和59年1月14日から22日まで，スペイン，ポルトガル，イギリスに出張し，ヨーロッパにおける芸能の現状調査を行った。

三隅治雄芸能部長は，昭和59年3月18日から21日まで，タイに出張し，タイの民俗舞踊の調査を行った。

保存科学部

三浦定俊研究員は ICOM(国際博物館会議)保存委員会の招へいにより，昭和58年8月28日から9月14日まで ICOM 保存委員会分科会(保存修復の教育と訓練)出席のため，ドイツ民主共和国(東ドイツ)に出張した。あわせて第7回国際研究集会のため，フランス，ベルギーを訪問した。

江本義理部長は韓国文化公報部文化財管理局の招きにより，昭和58年10月4日から10月10日まで，韓国に出張した。新安海底から引き揚げられた遺物の処理，韓国文化財研究所等における科学的保存処理に関し研究協力を行った。

石川陸郎主任研究官は昭和58年4月28日から5月8日まで韓国に出張し，青銅器の科学的研究調査を行った。

見城敏子物理研究室長は第4回国際保存・修復研究会(ユネスコ・ハンガリー共催)に出席し，「日本における文化財の保存について」発表した。また，博物館・美術館の展示施設，所蔵品の調査した。

修復技術部

第3修復技術研究室青木繁夫研究員は，昭和58年9月1日からカ10月間，文部省長期在外研究員として，イギリス，ロンドン大学考古学研究所において金属器の保存，修復処理について研究中。

修復技術部長鈴木友也は，昭和58年9月4日からカ1月間，国際交流基金の派遣で，アイルランド国ダブリン国立博物館所蔵の日本製文化財の調査を実施した。

第2修復技術研究室長増田勝彦はオーストラリア国の文化財保存修復協会の要請で，昭和58年9月2日から9月22日まで，オーストラリア文化財修復会議に出席し，紙本美術品修復研修会に参加指導した。

情報資料部

情報資料部長宮次男は，中華民国台北市国立故宮博物院に出張し，宋・元・明代における法華経及び観音経所依の仏教説話図について同院所蔵品の調査を行った。(58.5.22～58.5.31)

第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議は東京・京都を会場とし，1830余名の参加を得て東アジアではじめて開催されたが，美術部門の第11部会において上野アキ文献資料研究室長は Paintings of Astāna and Excavated Literature, 江上綏主任研究官は Landscape Depiction in Sutra Ornamentation in the Heian Period-With Special Reference to Lotus Sutra Ornamentation—と題する発表を行い，米倉迪夫研究員は，美術史学会の委嘱委員として運営に参加した。(58.8.31～9.7)

鶴田武良写真資料研究室長は，中華人民共和国に出張し，北京・西安・上海において現代中国絵画資料の収集並に調査研究を行った。(58.9.2～10.24)またアメリカ合衆国カンサス大学における来舶画人研究セミナーに出席し，合せてシアトル美術館，メ

事　業

トロポリタン美術館収蔵中国絵画及び来舶画人作品の調査を行った。(59. 2. 7～3. 15)

海外研究者の来訪

S. 58. 4. 1～S. 59. 3. 31

国名	所属	氏名
アメリカ	ニューヨーク州立大学　紙の保存家	J. ハーディ
スイス	紙の修復家	L. ミカーラ
イタリア	〃	G. ピニャテリ
〃	〃	R. バルディ
〃	〃	C. ボルーゾ
オーストリア	〃	M. グエルニ
ドイツ	〃	J. ストリッカー
オーストリア	〃	R. ヘンリック
スイス	〃	O. マッソン
中華民国	台湾省政府民政庁長	劉　裕　猷
〃	台湾省文献委員会主任委員	江　慶　林
エルサレム	ヘブライ大学考古学・史学部	Z. カレイ
〃	ヘブライ大学地理学部	L. H. カレイ
イギリス	ロンドン大学考古学研究所	J. ブラック
スイス	ウインターツーア大学保存部	S. J. S. サング
イタリア	博物館部門	A. ガランディニ
ペルー	国立人類学博物館長	V. ピメンテル
ルーマニア	ルーマニア国立美術館　絵画保存	Y. エフレモ
オーストラリア		B. ツボレック
パキスタン	中央考古学研究所	R. U. チャウドリィ
イギリス	コートールド美術研究所長・ロンドン大学教授	P. ラスコ
〃	コートールド美術館長	B. ホー
〃	コートールド美術館保存担当	S. ジョーンズ
オランダ	アンチル　イコモス委員長	F. ジュリアン
ドイツ	ハンブルグ大学教授	D. エックシュタイン
大韓民国	円光大学校副教授	洪　潤　植
〃	東国大学校名誉教授	趙　明　基
〃	仏教大学副教授	金　仁　徳
中華民国	行政院文化建設委員会副主任委員	孔　秋　泉
中華人民共和国	中国武漢大学化学系講師	張　俐　娜

エジプト	エジプト考古庁総博物館局長	M. A. モーセン
〃	エジプト国立博物館保存センター	S. エマーラ
フランス	国費留学生	M. フランシス
アメリカ	染織研究家	A. ステンチクム
大韓民国	国立文化財研究所	金　炳虎
アメリカ	ハワイ大学	M. タハラ
〃	シアトル美術館	Y. ブロックマン
フランス	フランス極東学院	A. フォルテ
中華人民共和国	中国美術家協会	張　綺曼
アメリカ	フロリダ州立大学	M. ペネロペ
チェコ	チェコスロバキア国立博物館	R. ボハーチコバ
フランス	パリ第3大学	F. ベルチェ
イギリス	大英博物館	P. ウイルズ
ドイツ	シュットガルド市リンデン博物館	A. ブラント
中華人民共和国	中央美術大学教授	金　維諾
〃	敦煌文物研究所所長	段　文杰

招へい研究員

昭和53年度より招へい研究員の制度が設けられ，本年度は国外2名，国内2名の研究員に研究が委嘱され，下記のように共同研究が行われた。

1) ポール・シュバルッバウム(国際文化財保存修復センター(ICCROM)壁画コース主任)

共同研究課題　壁画保存に関する研究

研究代表者　修復技術部長　鈴木　友也

委嘱期間　58年11月15日～12月13日

2) エディドウウィット(ベルギー王立文化財研究所無機質材料研究室長，ICCROM講師)

共同研究課題　石造文化財保存のための石の化学的処理

研究代表者　保存科学部長　江本　義理

委嘱期間　58年10月30日～11月30日

3) 山崎　隆之　(東京芸術大学助手)

共同研究課題　日本彫刻における造像技法とその修復技術の研究

事　　業

研究代表者　修復技術部長　鈴木　友也

委 嘱 期 間　59年2月13日～3月14日

4)　洪　　潤植　(韓国円光大学校副教授)

共同研究課題　宗教芸能の比較研究

研究代表者　芸能部長　三隅　治雄

委 嘱 期 間　59年2月13日～3月8日

職員の海外出張及び研修旅行

①渡航先　②目的　③期間　④旅費の出途

石川　陸郎

①　大韓民国

②　青銅器の科学的研究

③　58. 4. 28～58. 5. 8

④　自　費

田実　栄子

①　大韓民国

②　韓国の檀国大学校主催の"繊維(文化財)の科学的保存法"の共同研究・共同資料調査

③　58. 5. 1～58. 5. 10

④　韓国檀国大学校

伊藤　延男

①　イタリア国

②　ICCROM(イクロム)の理事会及び総会出席

③　58. 5. 4～58. 5. 15

④　文部省

①　オーストラリア国

②　オーストラリアユネスコ国内委員会主催の歴史的土地・建物に関する会議出席

③　58. 5. 22～58. 5. 29

④　オーストラリアユネスコ国内委員会

宮　次男

①　中華民国

②　仏教説話図の研究

③　58. 5. 22～58. 5. 31

④　自　費

見城　敏子

①　ハンガリー国

②　第４回国際保存，修復研究会出席

③　58. 6. 29～58. 7. 19

④　第４回国際保存修復研究会・自費

三浦　定俊

①　ドイツ民主共和国(東ドイツ)

②　ICOM 保存委員会分科会会議出席

③　58. 8. 28～58. 9. 14

④　ICOM

青木　繁夫

①　イギリス，フランス，イタリア，ギリシャ，エジプト各国

②　イギリス，ロンドン大学，ローマ中央修復研究所における金属保存の研究及びパリ，アテネ，カイロにおいて修復資料収集

③　58. 9. 1～59. 6. 30

④　文部省在外研究員旅費

増田　勝彦

①　オーストラリア国

②　オーストラリア文化財保存・修復会議出席及び紙本美術品修復研修会講師

③　58. 9. 2～58. 9. 22

④　墺日協会

鶴田　武良

事　業

① 中華人民共和国

② 現代中国絵画動向の調査

③ 58. 9. 2～58. 10. 24

④ 自　費

鈴木　友也

① アイルランド国

② ダブリン国立博物館所蔵日本工芸品調査

③ 58. 9. 4～58. 10. 4

④ 国際交流基金

江本　義理

① 大韓民国

② 韓国国立文化財研究所との研究協力

③ 58. 10. 4～58. 10. 10

④ 韓国政府

伊藤　延男

① アメリカ合衆国

② 文化財保存・修復国際センターの財務計画委員会及び規格研修委員会出席

③ 58. 11. 5～58. 11. 13

④ イクロム

佐藤　道子

① ポルトガル，スペイン，イングランド各国

② ヨーロッパにおける芸能の調査

③ 59. 1. 14～59. 1. 22

④ 自　費

鶴田　武良

① アメリカ合衆国

② アメリカ合衆国カンサス大学東アジア研究所における来舶画人研究セミナー出席

③ 59. 2. 7～59. 3. 15

④　カンサス大学アジア研究所

三隅　治雄

①　タイ国

②　タイ国民族舞踊の調査研究

③　59. 3. 18～59. 3. 21

④　自　費

V　研究施設・設備

1　蔵　　書

美術関係図書

日本・東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全般にわたる研究書を中心に，関連図書，各種叢書，辞典類など和漢書(37,037)，洋書(3,974)，計41,011冊のほか，各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書，美術関係雑誌，紀要類，売立目録，展覧会目録などを所蔵し，部内外及び研究所外の研究者の利用に供している。

芸能関係図書

雅楽・寺事・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸，その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書7,278冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説などの雑誌，それに声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本も収集している。

保存科学・修復技術関係図書

古来の伝統的生産及び工芸技術書，技術史，又は数少ないそれらの科学的究明を試みたもの，修理工事報告書，及び化学・物理学・生物学部門の保存科学に関連ある和洋書を合わせて2,436冊を所蔵している。

過去3年間における収書数と総計は次表のとおりである。

区　　分	美術関係		芸能関係		保存科学・修復技術関係		計
	和漢書	洋　書	和漢書	洋　書	和漢書	洋　書	
56　年　度	529冊	41冊	280冊	4冊	52冊	25冊	931冊
57　年　度	822〃	39〃	438〃	0〃	26〃	24〃	1,349〃
58　年　度	337〃	34〃	281〃	65〃	19〃	32〃	768〃
総　　数	37,037〃	3,974〃	7,210〃	130〃	1,498〃	938〃	50,787〃

2 出 版 物

美術部・情報資料部

(1) 美 術 研 究

昭和7年より同59年3月までに通算327号を刊行した。

(2) 日本美術年鑑

昭和11年創刊。毎年1冊(ただし昭和19～21，同22～26，同49～50年は各合冊)出版し，昭和59年3月までに39冊を刊行した。

(3) その他の出版物

支那古版図録	(美術研究資料第1輯)	昭和7
吉備大臣入唐絵詞	(美術研究資料第2輯)	昭和9
徽宗摹張萱搗練図	(美術研究資料第4輯)	昭和10
鳳凰堂雲中供養仏	(美術研究資料第4輯)	昭和11
桃山時代金碧障壁画	(美術研究資料第5輯)	昭和12
富貴寺壁画	(美術研究資料第6輯)	昭和13
印度及南部アジア美術資料	(美術研究資料第7輯)	昭和14
光悦色紙帖	(美術研究資料第8輯)	昭和14
菱田春草	(美術研究資料第9輯)	昭和15
能恵法師絵詞	(美術研究資料第10輯)	昭和15
宮素然筆明妃出塞図巻	(美術研究資料第11輯)	昭和16
日本美術資料	第1輯	昭和13
日本美術資料	第2輯	昭和14
日本美術資料	第3輯	昭和15
日本美術資料	第4輯	昭和16
日本美術資料	第5輯	昭和17
近代日本美術資料	第1輯	昭和23

近代日本美術資料		第２輯	昭和24
近代日本美術資料		第３輯	昭和26
墨跡資料集		第１輯	昭和24
墨跡資料集		第２輯	昭和24
墨跡資料集		第３輯	昭和26
源氏物語絵巻			昭和24
黒田清輝素描集			昭和24
栄山寺八角堂			昭和25
栄山寺八角堂の研究			昭和26
法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究			昭和28
黒田清輝作品集			昭和29
高雄曼荼羅			昭和41
明治美術基礎資料集			昭和50
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで		昭和16
東洋美術文献目録続編	昭和11年～同20年		昭和23
東洋古美術文献目録	昭和21年～同25年		昭和29
美術研究索引	第１号～第100号		昭和16
美術研究総目録	第１号～第230号		昭和16
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで(再刊)		昭和42
日本東洋古美術文献目録	昭和11年～同40年		昭和44
日本絵画史年紀資料集成(10世紀～14世紀)			昭和58

ほかに科学研究費補助金(研究成果刊行費)の交付を受け，又は本研究所の監修で刊行された図書は次のとおりである。

光学的方法による古美術品の研究	東京国立文化財研究所光学研究班編	吉川弘文館	昭和30
粱楷	美術研究所編	便利堂	昭和32
醍醐寺五重塔の壁画	高田　修編	吉川弘文館	昭和34
平安時代世俗画の研究	秋山光和著	吉川弘文館	昭和39
近代日本美術の研究	隈元謙次郎著	大蔵省印刷局	昭和39

黒田清輝	隈元謙次郎著	日本経済新聞社	昭和41
扇面法華経	秋山　光和 柳沢　　孝著 鈴木　敬三	鹿島出版会	昭和47
金字宝塔曼陀羅	宮　　次男著	吉川弘文館	昭和50
黒田清輝素描集	東京国立文化財研究所編	日動出版	昭和57

芸　能　部

標準日本舞踊譜		創芸社	昭和35
音盤目録Ⅰ	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和41
改訂標準日本舞踊譜		創思社	昭和41
芸能の科学１	―芸能資料集Ⅰ　四世鶴屋南北作者年表		昭和42
芸能の科学２	―芸能資料集Ⅱ　鮫の神楽台本集成		昭和42
音盤目録Ⅱ	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和46
東大寺修二会	観革悔過(お水取り) 東京国立文化財研究所芸能部監修	日本ビクター	昭和46
芸能の科学３	―芸能論考Ⅰ 東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和47
芸能の科学４	―芸能資料集Ⅲ 東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和48
芸能の科学５	―芸能論考Ⅱ 東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和49
芸能の科学６	―芸能調査録Ⅰ「東大寺修二会の構成と所作」(上) 東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和50
芸能の科学７	―芸能調査録Ⅱ「東大寺修二会の構成と所作」(中) 東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和52
芸能の科学８	―芸能論考Ⅲ 東京国立文化財研究所芸能部編		昭和52
芸能の科学９	―芸能論考Ⅳ 東京国立文化財研究所芸能部編		昭和53

研究施設・設備

音盤目録Ⅲ　東京国立文化財研究所芸能部編　昭和53

芸能の科学10　―芸能論考Ⅴ
東京国立文化財研究所芸能部編　昭和54

芸能の科学11　―芸能論考Ⅵ
東京国立文化財研究所芸能部編　昭和55

芸能の科学12　―芸能調査録Ⅲ「東大寺修二会の構成と所作」(下)
東京国立文化財研究所芸能部編　平凡社　昭和55

芸能の科学13　―芸能調査録Ⅳ「東大寺修二会の構成と所作」(別)
東京国立文化財研究所芸能部編　平凡社　昭和57

芸能の科学14　―芸能論考Ⅶ
東京国立文化財研究所芸能部編　昭和57

音盤目録Ⅲ　改訂版　東京国立文化財研究所編　昭和58

保存科学部・修復技術部

(1) 保存科学

昭和39年3月創刊になる保存科学部・修復技術部の機関誌で，年1回の刊行により昭和59年3月迄に23号を刊行した。

(2) 受託研究報告　重要文化財円成寺本堂内陣彩色剝落どめ他18件　昭和35～昭和42

(3) 表具の科学(特別研究・軸装等の保存及び修復技術に関する科学的研究報告書)
昭和53

国際研究集会報告書

Proceedings International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property.

The 1st International Symposium

Nov. 24-28, 1977, Tokyo, Nara and Kyoto, Japan

—Conservation of Wood— (1978)

The 2nd International Symposium

Nov. 27-30, 1978, Tokyo and Tsukuba, Japan

—Cultural Property and Analytical Chemistry— (1979)

The 3 rd International Symposium

Nov. 26-29, 1979, Tokyo, Japan

—Conservation of Far Eastern Art Objects— (1980)

The 4 th International Symposium

August. 6-9, 1980, Tokyo, Japan

—Preservation and Development of the Traditional Performing Arts— (1981)

The 5th International Symposium

October 6—9, 1981. Tokyo, Japan

—Interegional Influences in East Asian Art History—(1982)

The 6 th International Syposium

November 1—6, 1982, Tokyo, and saitama Japan

—the Conservation of Wooden Cultural Property— (1983)

3 資　　料

美術関係資料

実物よりの直接撮影による写真を含む写真資料の作成整理と，購入写真，複写写真による補足整備に加えて，印刷物中の図版をもおさめるという方式で，当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全域にわたり，それぞれ絵画，書蹟，彫刻，工芸，建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ26万点，原板保有量はほぼ3分の1にあたり，別にマイクロ・フィルム255巻がある。写真資料のほか，拓本，作家伝記資料，落款印章資料，近代・現代作家・団体・作品資料，資料スクラップ等と，図書カード，図版カード，各種索引類など多数。

芸能関係資料

レコード・録音テープ・写真(8ミリ・16ミリシネを含む)等による芸能資料を多数そなえている。レコードには，毎年各製作会社から発売される伝統芸能関係レコード

のほか，昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは，明治・大正・昭和三代にわたって発売された各種邦楽レコードを網羅したもので，近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ及び写真は，雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので，奏演法の解析を中心とした写真・テープ，あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。種別による所蔵数は次のとおりである。

区　分	レコード	録音テープ		シネフィルム		写　真	ビデオテープ
		従来方式	PCM方式	8 mm	16 mm		
昭和56年度までの累計	6,837枚	2,406本	0本	198本	3本	多　数	40本
昭和57年度	95〃	64〃	40〃	0〃	1〃	多　数	40〃
昭和58年度	66〃	60〃	40〃	0〃	0〃	多　数	25〃
計	6,998〃	2,530〃	80〃	198〃	4〃	多　数	105〃

4　機器・設備

美術部・情報資料部

機　　器

1.　X線透過撮影装置

(1)　可搬式ソフテックス装置(J型)　1式

(2)　可搬式ソフテックス装置(新J型)　1式

(3)　携帯用ソフテックス装置(E型)　1式

2.　紫外線照射装置

(1)　可搬式照射装置(フィリップス紫外線ランプ及び専用トランス)　2台

(2)　携帯用紫外線検査器　1台

3.　顕微鏡装置

(1) 双眼実体顕微鏡及び写真装置　1式

(2) 新型双眼実体顕微鏡及びカラー顕微鏡写真同時撮影装置(可動支持台及び携帯用スタンド)　1式

(3) 検査顕微鏡用側視鏡ユニット・モノフォト装置　1式

(4) 比較顕微鏡型Ⅲ型　1式

4. 赤外線テレビ関係設備

(1) 移動式架台　1式

(2) テレビカメラ(ライト，ズームレンズ付)　1式

(3) ビデオ装置　1式

(4) モニターテレビ　2台

(5) 高解像度モニターテレビ　1台

5. マイクロ写真関係設備

(1) マイクロ写真撮影装置(自動現像機，プリンター，引伸機・乾燥機等付)　1式

(2) ポータブル・マイクロ写真撮影装置　1式

(3) マイクロ閲読機(ルーモ社製)　3台

(4) リーダープリンター　1台

6. デアスコープ(視聴覚教育装置)　1台

7. カメラ類

(1) リンホフカルダン　1台

(2) リンホフテヒニカ　3台

(3) コメット・ストロボ CP-1200 DX　1台

(4) 工業用ファイバースコープ　1式

8. 引 伸 機

(1) オメガ(4×5)　2台

(2) フジA690　1台

(3) フジS69　1台

(4) オメガ(5×7)　1台

9. 複 写 台

研究施設・設備

(1) コピースタンド(1300) 1台

(2) スライドコピア MD 400 1台

10. 乾燥機 FC オート(全紙) 2台

11. ドライマウント シールコマーシャル210M 1台

ドライマウント シールコマーシャル70 1台

12. マルチカードセレクター(HAC 841 S 型) 1式

13. 複写機 ハイカードL 1台

14. 製 本 機

(1) サーマバインドT220 1台

(2) ホリゾン BQ-18 L 1台

(3) 電動断裁機 PC-45 1台

15. プロジェクター キャビン AF-2500 1台

16. タイプライター オリベッティ ET-221 1台

芸 能 部

機 器

1. 分析機器

(1) ピッチレコーダー 1台

(2) メログラフ BT 型 1式

2. オーディオ関係機器

(1) レコードプレーヤー 8台

(2) テレビ 2台

(3) テープレコーダー 18台

(4) ビデオテープレコーダー 5台

(5) ステレオ音声調整卓 1台

(6) スピーカー 4個

(7) テープダビングシステム 1式

(8) 屋外取材用音声機器システム 1式

(9) P. C. M. 音響システム 1式

3. 撮影・影写機器

(1) 16mm撮影機　1台

(2) 16mm映写機　1台

(3) 8mm撮影機　4台

(4) 8mm映写機　2台

(5) 35mm写真機　6台

(6) 35mmマイクロフィルム解読装置　1台

(7) 16mmマイクロフィルム解読・複写装置　1台

(8) 16mmマイクロ写真機　1台

(9) 16シネフィルム分析装置　1台

(10) リーダー・プリンター　1台

(11) ビデオカメラ　2台

4. 照明器具

(1) スタジオ用照明器具　1式

5. 楽　器

(1) ピアノ　1台

(2) 箏　1面

保存科学部・修復技術部

1. 機　器

(1) サンシャインスパーロングライフウェザーメーター(劣化促進試験機)　1台

(2) 万能試験機(島津，オートグラフ，インストロン型，10トン)　1式

(3) 回折格子光照射器　1台

(4) 紙耐揉強度試験機　1台

(5) 衝撃試験機(シャルピー，アイゾット兼用)　1台

(6) 紙耐折試験機(MIT)　1台

(7) 凍結融解試験機(コイトトロン HNL-T 特殊型)　1台

(8) シュミットハンマー(圧縮強度測定用)　1台

(9) カラーコンピューター(スガ試験機 SM-3) 1台

2. 顕微鏡装置

(1) 金属顕微鏡 1台

(2) 生物顕微鏡 1台

(3) 表面アラサ顕微鏡 1台

(4) 万能顕微鏡 1式

(5) 走査型電子顕微鏡(JSM-50 A 型) 1式

3. 分析装置

(1) ガスクロマトグラフ(ガス分析，水素イオン化検出器・熱伝導検出器・熱分解装置付) 1式

(2) ポーターガスアナライザー(MIRAN-1 型) 1式

(3) 回折格子自記赤外分光光度計 1台

(4) 〃 赤外顕微鏡 1台

(5) 自動記録式示差熱天秤 1式

(6) 炭素・水素・窒素分析計 1式

(7) 光電分光光度計(自記) 1台

(8) 螢光線分析装置(標準型及び非破壊用大型試料台つき) 1式

(9) 可搬式螢光線分析装置(現場可搬用) 1式

(10) X線回折装置及びデバイシェラーカメラ，ラウエカメラ(結晶同定) 1式

(11) 発光分光分析装置(MI 型)(高圧整流スパーク，直流アーク) 1式

(12) カラム用循環恒温槽 1台

(13) 超音波洗浄機 1台

(14) 細管式等速電気泳動装置 1台

(15) 赤外分光光度計 1台

(16) 固体用質量分析計 1式

(17) 原子吸光光度計 1式

4. 非破壊検査装置

(1) 工業用X線発生装置(60 KVP, 4 mA) 1式

(2) 工業用X線発生装置(200 KVP, 8 mA) 1台

(3) Cs-134 γ線線源(透視用2Ci) 1個

(4) 赤外線TVカメラ装置 1式

(5) 超音波探傷器UFC-201型 1台

(6) 超音波式コンクリート試験器 1台

(7) 〃 厚み測定器 1台

(8) シングアラウンド式音速測定装置UVM-2 1式

5. 物性測定機

(1) 粒度分布測定装置 1式

(2) 熱膨張計 1台

(3) レオメーター(粘性試験用) 1式

(4) 直読式動的粘弾性測定器 1台

(5) 真空蒸着装置(表面薄膜形成用) 1台

(6) 篩振盪機(標準フルイ付) 1台

(7) 明石ロックウエル硬度計ARK-B 1台

(8) ゴニオメーター(接触角測定機) 1台

(9) ゼーター電位測定装置 1式

(10) PHメーター 1台

(11) 透水試験機 1台

(12) 表面張力測定機 1台

(13) 万能デジタル計測システム(ユーカム8) 1式

(14) フィールドメモリー 1台

6. 照明及び温湿度装置

(1) 恒温恒湿室(5～40℃, 40～90%) 1台

(2) 自記分光放射計(光源の分光測定) 1台

(3) ライトガイドカラーメーター(色彩測定) 1台

(4) 恒温恒湿槽(0°～40℃, 20～90%) 1台

(5) 風速計(熱式)AM01 1台

(6) サーモダックII 1台

(7) 恒温恒湿槽(−30°～80℃, 5～95%) 2台

(8) SM カラーコンピューター　1台

(9) 卓上型恒温恒湿器　1台

(10) 紫外線強度計　1台

7. 殺虫殺菌装置

(1) 滅菌装置　2台

(2) 滅圧殺虫装置　1台

(3) ガス滅菌装置 GS-15 特型　1台

8. 生物実験用器機

(1) 超低温槽(−50℃)　1台

(2) 冷却遠心機(−20°〜5℃)　1台

(3) ピンホールサンプラー　1台

9. 環境汚染測定装置

(1) 粉塵計(記録装置付)　1式

(2) 悪臭分析装置　1式

10. 修復処置装置

(1) 真空凍結乾燥装置　1式

(2) 減圧含浸装置　1式

(3) エヤブラッシュ装置　1式

(4) 合成樹脂圧入装置　1式

(5) 水浸木材用含浸装置　1式

(6) 熱風恒温乾燥機　1台

(7) 装潢用備品　1式

(8) 万能木工機　1台

(9) 漉　嵌　機　1台

(10) 超音波発生装置　1台

(11) 蒸　溜　器　1台

11. 情報処理装置

(1) PC-8800 システム　1式

(2) デジタルマルチメーター　1式

閲　覧　室

(3)　ユニバーサルカウンター　　1台

(4)　ADコンバーター　　1式

5　黒田記念室

黒田記念室は，本研究所の創立者故帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であって，黒田清輝の油絵・素描・写生帳等を収蔵している。

創立当時主として黒田家から寄贈されたものは，油絵125点，素描170点，写生帳等であるが，その後黒田照子夫人，樺山愛輔，田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは，「知感情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるる日影」・「温室花壇」等である。

観覧の日時は毎週木曜日午後1時から同4時までとし，観覧を停止する日は次の通りとする。

祝　日

開所記念日（10月18日）

年末年始（12月25日から翌年1月6日まで）

夏期（7月21日から8月31日まで）

本研究所において必要があるときは，前条の日時を随時変更することがある。ただし，この場合は予め掲示する。

昭和52年度より，黒田清輝作品の地方巡回展を行い，本年度は福井県立美術館で開催した。

6　閲　覧　室

本研究所情報資料部の図書写真及び各種研究資料は主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等の利用に供している。年間の閲覧者数は，約500名である。

東京国立文化財研究所要覧（昭和58年度）

昭和59年7月25日 発行

発行所　東京国立文化財研究所

〒110　東京都台東区上野公園13-27
電話（823）2241（代）